

令和7年度使用

中学校用教科用図書の 選定に必要な資料

松江採択地区教科用図書採択協議会

各発行者記号は以下のとおりである。

記号	発行者名	記号	発行者名
A	東京書籍	L	新興出版社啓林館
B	大日本図書	M	山川出版社
C	教育図書	N	数研出版
D	開隆堂出版	O	日本文教出版
E	学校図書	P	G a k k e n
F	三省堂	Q	自由社
G	教育出版	R	育鵬社
H	教育芸術社	S	学び舎
I	光村図書出版	T	あかつき教育図書
J	帝国書院	U	日本教科書
K	大修館書店	V	令和書籍

選定に必要な資料の観点と規準

(1) 記述された内容、程度が、児童の発達段階に適合しているか。また、分量が適切であるか。

- ・ 基礎的・基本的な内容の定着を図る工夫がなされているか。
- ・ 児童の思考力、判断力、表現力を引き出す工夫がなされているか。
- ・ 多様な児童の学習状況に対応する工夫がなされているか。 など

(2) 取り上げられた教材の選択や構成は、学習を効果的に進めるために適切なものになっているか。

- ・ 内容の系統性に配慮した単元の配列などの工夫がなされているか。
- ・ 自ら調べ、まとめるなどの問題解決的な学習につながる工夫がなされているか。 など

(3) 児童が興味・関心をもって学習できるように工夫されているか。

- ・ 自ら課題を見つけ、学習を継続的、発展的に進めていくための工夫がなされているか。
- ・ 意欲を喚起するために、写真や図表などの資料、レイアウトなどの工夫がなされているか。 など

(4) 各教科の特性が生かされ、島根県の実態や課題に適合しているか。

- ・ 松江や安来の地域の実態に合うような教材を生かし、様々な体験や活動を通して考える学習への工夫がなされているか。
- ・ 今日的な課題を追求する学習につながる工夫がなされているか。 など

(5) 各教科等における資質・能力との関連や、実生活へ生かせる工夫が盛り込まれているか。

(6) その他

- ・ 観点(1)～(5)にあてはまらない内容やその他特筆すべき事項。

○ 総括

- ・ 観点(1)～(5)及びその他についての記述や感性を育む要素などを総合したその教科用図書の全体的な特徴。

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：国語)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	「話すこと・聞くこと」は青、「書くこと」は緑と、領域ごとに色分けされ、学ぶ領域が視覚的にわかりやすいよう工夫されている。(1年p.6-8)	話し合いについての学習では、例を豊富に示すことで、協働的な学びの中での合意形成の仕方がわかりやすいよう配慮されている。(3年p.202-208)	古典の導入として、「移り行く浦島太郎の物語」を取り上げ、昔話の変遷を紹介することで、古典学習への関心を引き出すよう配慮されている。(1年p.140-143)	「デジタルコンテンツ」では、予習や復習に活用できるデジタルコンテンツが示されており、家庭学習においても主体的に活用できるよう工夫されている。(3年p.313-314)	「未来への扉」では未来を考える9つのテーマを設け、単元ごとに関連するテーマを示して、学習内容を実生活や社会と関連付けられるよう配慮されている。(1年p.9,65)	参考資料などをデジタル化し二次元コード経由にすることで、従来より3学年分で100ページ以上が削減され、持ち運びの負担軽減が図られている点で優れている。	全体的に、資料がデジタルコンテンツに移行されたことにより、教科書が軽量化されたことに加え、視覚・聴覚の両面から学習内容を捉える助けとなり、また個の学びのペースに合わせて繰り返し家庭学習ができるよう工夫されている点に特徴がある。
	「助詞一覧表」では、各助詞の例文が掲載され、言葉の役割の違いが分かりやすくなるよう工夫されている。(2年p.240)	「読むこと」の学習で身につけた力を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材で生かす構成になっており、身に付けた力を確実に定着させるよう工夫されている。(1年p.126-133)	3年間で計415のデジタルコンテンツが用意され、二次元コードの下に「文法ゲーム」など内容が明示されており、興味をもったものにアクセスしやすい工夫がされている。(1年p.38)	「『地域の魅力』の紹介文」では、地域の題材を取り上げた学習に組み込み「総合的な学習の時間」と関連付けられるようになっている。(2年p.68-72)	他教科と関連する内容を多く取り上げ、関連マークを示して、国語の学習内容を他教科等に生かしやすいよう工夫されている。(3年p.64)	各単元の扉に、四季を味わう詩歌を印象的な写真とともに掲載して、感性を磨くことができるようになっている。(3年口絵,p.49)	
F 三省堂	「領域別教材一覧」の付いた力と本編の目標を対応させることで、授業のねらいが明確になるよう配慮されている。(1年p.6-11,36-39)	「読み方を学ぼう」で学んだ読み方のスキルを巻末で一覧にして整理し、さまざまな文章を読む際に活用しやすいよう工夫されている。(1年p.78,巻末)	「読書の広場」には「古事記」が掲載されており、本県にゆかりのある内容を通して古文に親しむ態度につなげられるようになっている。(1年p.280-285)	音節、語順、慣用句などの語句や文法の学習では、英語との比較や例示を用いることで、言葉への興味・関心を高められるよう工夫されている。(1年p.329/2年p.247/3年p.163)	「話し合いの形式を選ぶ」では、オンラインでの話し合いを取り上げ、学習内容を実生活に生かせるよう配慮されている。(2年p.314-315)	現代の生徒の興味・関心が高められるような題材の選定がなされ、主体的な学びにつながるデジタルコンテンツの充実や視覚的な支援により、生徒の学びに寄り添うよう構成されている点や、対話的な学びにつながる思考ツールの紹介や巻末に豊富な参考資料が掲載されている点について特徴がある。	
	資料編の参考資料には、「学習用語辞典」「小倉百人一首」「五十音図とローマ字」など多岐にわたる内容が掲載され、学習が深められるよう工夫されている。	「読むこと」領域終末の「学びを広げる」の学習活動が、次の「書くこと」領域の教材になるように構成され、領域を関連付けた学習活動がしやすいようになっている。(2年p.198-204)	各学年で「漢字を身につけよう」では、漢字クイズを掲載し、漢字への興味・関心が高まるように工夫されている。(1年p.42)	巻末に「学習用語辞典」が設けられており、語彙に関する詳しい説明の活用を通して思考が深められるよう工夫されている。(1年p.318-323)	各学年の「情報を関連付ける」では、防災や水問題、ロコミなど現代社会が抱える問題をテーマとしている点が工夫されている。(3年p.150-151)		デジタルコンテンツには「読み方を学ぼう」の解説動画、漢字ドリル、古文の朗読音声などが収録され、学びを深めたり家庭学習に生かしたりできるよう工夫されている。(2年p.100,110,112)
G 教育出版	冒頭には入門期教材を設け、領域ごとに学びをスモールステップ化し、小中の円滑な接続を図ることができるようになっている。(1年p.16-47)	古典では「おくのほそ道」と杜甫と李白の漢詩を取り上げ、相互のつながりを捉えることでそれぞれの作品の理解が深まるよう工夫されている。(3年p.118-140)	「情報・メディアと表現」では、生徒になじみのある漫画を掲載することで、興味・関心をもって学習に取り組み、表現の特徴について考えられるようになっている。(1年p.232-235)	学習用語の初出ページや解説ページをまとめた索引が巻末に設けられ、家庭学習の際に活用できるようになっている。(1年p.323-324)	「情報・メディアと表現」の「実用文の情報を捉えて生かす」では、取扱説明書や広告、料理のレシピなどを取り上げ、学んだことを実生活で生かせるよう工夫されている。(3年p.110-113)	教材や使われている語句に独自なものが多く、専門性が高い内容になっている点や、「学びナビ」「学びのチャレンジ」など教科書をガイドとして主体的に学べるような構成になっており、国語に関心が高い生徒の学習意欲に応えられる内容である点に特徴がある。	
	教材の読み方や読むときの観点、学習活動のポイントを示す「学びナビ」を教材の前に配置して、生徒が目的意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p.36-37)	説明文教材では、異なる職業、立場で社会で活躍してきた筆者の文章を読み比べることで、自分の考えを深めることができるようになっている。(3年p.92-104)	「学びのチャレンジ」では、行事や他教科等とのつながりを意識した題材を問題に取り上げることで、学習意欲を高められるよう工夫されている。(2年p.212-224)	近代文学作品を各学年1作品ずつ掲載する他、「広がる本の世界」では3年間計334冊の本を27回にわたって紹介しており、読書への意欲を喚起するようになっている。	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材末尾の「学びを生かす」では、具体例を挙げ、学んだことを他教科等の学習や生活に生かせるようになっている。(1年p.47)		「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)
I 光村図書出版	「価値を語る」では、文章を比較する観点を具体的に示すことで、気づいたことを話し合い、読みを深めることができるよう構成されている点が優れている。(2年p.166-179)	音読・発表の仕方、ノートを使い方など、中学校の学びのスタートにあたって学び方の確認ができるようになっている。(1年p.16-20)	「資料や機器を活用して話す」では「コピペ」が資料作成の題材例として使用されており、身近な話題をもとに興味・関心もてるよう工夫されている。(2年p.33)	巻頭折込ページには、「思考の地図」と題して、発達の段階に適した思考ツールが紹介されており、活用を通して思考が深められるよう工夫されている。(1年p.9-10)	「学習の見通しをもと」には他教科等との関連が明記され、カリキュラム・マネジメントを意識した指導計画を編成しやすいう工夫されている。(1年p.6-8)	全体的に書き下ろし、書き改めの教材が多く、生徒に親しみやすい内容や構成である点に工夫が見られるとともに、他教科やSDGsとの関連が明記され、生徒が幅広い事柄に興味・関心を持ち、学習の成果を実生活に生かせるよう工夫されている点に特徴がある。	
	「持続可能な開発目標(SDGs)」と情報を関連付けた単元が設定されており、社会・世界との関わりを考えさせるようになっている。	「学びへの扉」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から自己の学習を振り返ることができるよう工夫されている。(3年p.134)	古典の学習では、作品の登場人物や全体像の図解、関連事項のつながりなどの図などが掲載され、視覚的に捉えやすいよう構成されている点が優れている。(1年p.156/2年p.141-145)	「本の世界を広げよう」では、3年間計447冊の本を紹介することで、読書への意欲を喚起するようになっている。(3年p.94-96)	「実用的な文章を読む」では、資源とごみの分別についてのウェブページや、ポスターが掲載され、実生活に即した情報活用となるよう配慮されている。(3年p.76-77)		巻末「語彙ブック」には、思考や心情を的確に言語化するための語彙が多数紹介されており、表現力や思考力の育成につながるよう構成されている点が優れている。(2年p.267-274)

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：書写)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	B5変形版サイズで、各学年の内容を掲載した本体104ページと「書写活用ブック」41ページ、計145ページで構成されている。	「身につける」「使い分ける」「使いこなす」と3年間を通して系統的に学習を進めていけるよう構成されている。	「文字といっしょに」では、手書き文字と活字の違いやUD書体の解説、目的や必要に応じた筆記用具の使い分けが取り上げられ、文字文化への興味・関心が持てるよう工夫されている。(p.16,68)	書写テストが各学年の最後に設けられており、文字を書く技能の向上だけでなく、知識面の理解度を測ることで、学習内容の確認や定着を図ることができるよう工夫されている。(p.44,70,88)	職場訪問や本のポップ作り、理科のノート例をもとに自分のノートを見直すなど具体的な場面や状況、活動を題材にし、書写での学習をどのように生かすかを考えさせるよう工夫されている。(p.39,60,80)	1年生の冒頭では小学校での学習内容を確認できるページ、また3年生には高校書道の内容を紹介するコラムが設けられており、学習内容の関連が図られるよう工夫されている。(p.14,101)	硬筆文字から学習ポイントに気づき、毛筆で確認したのち、再度硬筆で他の文字を書くことで学びを振り返ることができるよう単元ごとの学習過程が組まれており効果的である。また、行書の基本的な4つの動きをパターン化して示し、その組み合わせにより行書の動作が習得できるような構成になっている点が特徴的である。
	主な毛筆教材は1年3教材、2年2教材、3年なし、となっている。硬筆教材として国語科教科書掲載の小説・古文が各1教材ある他に、毛筆と関連付けて学習する教材が掲載されている。	「生活に広げよう」と題して、書写の技能を生活に生かせるような内容が取り組みやすく工夫されている。(p.22,36,39,60,65)	文字を整えて書くための汎用的なポイントを「書写のかぎ」として段階的・系統的に配列し、1時間の学習内容を焦点化して示している。	毛筆教材文字についてのナレーションやテロップによる解説がついた運筆動画があり、筆の動きを実演で確認でき、また必要に応じてタブレット端末を利用し、個別に学習できるよう工夫されている。(p.15)	随所にある「教科関連マーク」により、他教科との学習を関連付けることができ、さらに巻末の書写活用ブックではさまざまな書式について具体例を示して、役立てることができるよう工夫されている。(p.34)	巻末の書写活用ブックには、学年を問わず必要に応じて活用できるように、資料がまとめて掲載されている点で優れている。	
F 三省堂	B5版サイズ120ページで、「この教科書の使い方」「学習のはじめに」「本編」「資料編」の4つのまとまりで構成されている。	「書き方を学ぼう」では右ページで書き方のポイントをつかんでから、左ページを見て書く構成になっている。	国語科教科書掲載の詩・歌詞の手書き文字を掲載し、硬筆への興味・関心をもてるよう配慮されている。(巻頭・巻末)	タブレット端末などを活用して各教材の参照サイトで解説動画や運筆動画、参考資料を見ることができるよう二次元コードが提示され、また巻末「二次元コード一覧表」にまとめられているなど工夫されている。(p.104)	各学年末にある「やってみよう」では、グループ新聞や情報誌、名言集作りを題材とし、学習したことを活用して書くことができるよう工夫されている。(p.44,64,74)	各単元末には、自分が学んだことを書き残す欄が設けられており、単元の学習を振り返ることができるよう工夫されている。(p.21,29,43,53,61,73)	右ページには書き方のポイント、左ページには教材という統一された紙面構成になっており、学習過程を捉えやすいようになっている。また、書き方のポイントの一覧表を巻末に付けることで、3年間の学習内容を確認できる点が特徴的である。
	主な毛筆教材は1年4教材、2年3教材、3年なし、となっている。毛筆の後に書き込み指揮の硬筆教材「書いて身につけよう」が配置されている。	「毛筆補充教材」では同じ教材の楷書と行書を並べて豊富に掲載し、比較して学習できるように配慮されている。また、「やってみよう」と題して、書写の技能を生活に生かせるような内容が取り組みやすくまとめられている。(p.44,64,74)	「身のまわりの文字」の単元では、地域のポスターや手書き文字に関わる達人を取り上げ、文字文化の豊かさにふれ、文字文化の魅力を感じられるよう工夫されている。	「書いて身につけよう」では、毛筆で習得したことを幅広く活用できるように、硬筆で書き込み練習ができるよう配慮されている。(p.18,28,40,50,58,72)	資料編「日常の書式」では、宛名や送り状、のし袋、願書など、生活に必要な書式を具体的に示し、きまりや約束ごとを理解して書くことができるよう工夫されている。(p.80,81,82)	発展として、書の古典を紹介し、高等学校の学習内容に興味・関心をもてるよう配慮されている。(p.86)	
G 教育出版	AB版サイズ、144ページで、全学年共通、各学年の内容、資料部分の大きく3つのまとまりで構成されている。	毛筆の紙面は、右ページで教材文字をよく見てから左ページの学習ステップでポイントを確認する構成になっている。	冒頭の「目的に合わせて書こう」では学校生活等で文字を書く場面を紹介し、目的意識や相手意識をもって書写の学習に取り組めるよう工夫されている。	タブレット端末などを活用して「まなびリンク」では動画で運筆を確認したり、ワークシートを活用できたり、他の文字で応用を図ったりできるよう配慮されている。(p.2-3)	効果的なノートの書き方を学ぶことで、書写の学習を他の教科などの学習に活用できるよう工夫されている。(p.14,15)	漢字一覧表は共通する点で画面や似通った部分に分けて配列されており、調べやすく応用しやすいように工夫されている。(p.121-)	試し書きで課題を見つけてから毛筆で練習し、その学びを生かして他の文字を書いた後にまとめ書きで変容を確認する学習を振り返ることができるような学習過程になっている。「話し合い活動を通じた学び方」ではまとめ書きや筆使いについて話し合う際の学習用語やポイントがまとめられ、対話的な学びにつながる点が特徴的である。
	主な毛筆教材は1年4教材、2年3教材、3年1教材となっている。主な硬筆教材として、国語科教科書掲載の古典作品の本文が各学年に豊富に掲載されている。	「行書の筆使い『大』」では、朱墨の図版を見開き2ページに配置して、穂先の動きを写真で示すことにより、行書の筆使いを理解できるよう工夫されている。	日常生活で使用する筆記具を写真で紹介し、場面に応じて筆記具を使い分けて効果的に書くことについて、興味・関心をもてるよう工夫されている。	国語科で扱う古典や文学作品を視写することで、内容をより深く味わたり、言語感覚を養ったりしながら、学習内容の定着が図れるよう配慮されている。(p.30)	理科のレポートのまとめ方やポップ・ポスターの書き方などさまざまな書式について解説が掲載され、教科横断的に活用できるよう工夫されている。(p.14,32,108-)	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)	
I 光村図書出版	B5変形判サイズ、165ページで、「書写ブック」「中学校スタートブック」「書き初めマスターブック」各学年の内容の他、2つの資料部分で構成されている。	「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習の進め方を明示し、学習のポイントを「学びのカギ」としてまとめることで、何をどう学ぶかを分かりやすくしている。	1人1台端末の活用の仕方やプレゼンテーションのスライドなど、ICT機器を使う際のポイントについて具体例を掲載し、ICT機器を活用した学習に配慮されている。	UD書体など活字の書体を取り上げ、目的や相手に応じた文字の使い分けについて考えることができるよう工夫されている。(p.94-97)	「情報収集の達人になろう」や「職業ガイドを作ろう」では、ノートや学級目標、壁新聞などの例を掲載し、他の教科や学校生活に役立てる方法をイメージできるように工夫されている。(p64,86)	「書き初めマスターブック」には、書き初めの由来やポイント、たくさん級目標、壁新聞などの例が掲載され、他の教科や学校生活に役立てる方法をイメージできるように工夫されている。(p.142-148)	「中学書写スタートブック」には、書く姿勢や道具の並べ方などについて「右手で書く人」と「左手で書く人」へ向けた情報が二次元コード付きで掲載されており、全ての生徒に配慮されている。また、取りはずして使える別冊28ページの硬筆練習帳「書写ブック」に硬筆で書き込むことにより、毛筆の学びを硬筆に生かすことができる点が特徴的である。
	主な毛筆教材は1年3教材、2年3教材、3年2教材となっている。硬筆教材には、国語科教科書掲載の小説・古文・和歌が掲載されている。	毛筆教材では、「確かめよう」に穂先を示した朱墨の写真掲載し、運筆を確認しながら練習できるよう工夫されている。	行書の書き方の4つの特徴を「行書スイッチ」として示し、意識して書くことができるよう工夫されている。	「全国の字マップ」では、出雲大社や鳥取砂丘の碑文などが紹介され、身の回りの文字文化への興味・関心を高められるよう工夫されている。(p.90-93)	ミニコーナー「SDGs×書写」では、プラスチックフリーをめざして、筆の片付けの際にアルミ缶を使う例を紹介するなど書写から取り組めることに興味・関心が高まるよう工夫されている。(p.33)	二次元コードにはそれぞれ「アニメーション」「動画」などが添えられており、必要に応じて活用できるよう配慮されている。	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：社会(地理的分野))

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
A 東京書籍	「世界と日本の地域構成」は13時間、「世界のさまざまな地域」は40時間、「日本のさまざまな地域」は57時間の配当となっており、「持続可能な地域の在り方」を最後の単元を含んでいる。	単元に「導入資料」「学習課題」「チェック＆トライ」を設け、本時の問いに対するまとめができるように工夫されている。(p.6)	「世界の諸地域」では「世界の窓」というページを設け、特徴的なその州に関する大小様々な写真や主な国の挨拶を提示し、学習への関心をもたせることができる内容となっている。(p.60-61)	竹島について、写真や地形図を用いて、地理的特色を捉えられるようになっている。(p.28)	「主体的・対話的な学び」から深い学びにつながる活動や「もっと知りたい!」「未来にアクセス」などのコーナーが単元ごとに提示され、既習した事項や技能を活用し深い学びにつなげるよう工夫されている。(p.5, 11, 13)	QRコードを見出しや「学習課題」近くに掲載することで、生徒が主体的に情報にアクセスすることができるよう工夫されている。(p.8, 10)	「問い」を中心に課題解決的な学習を実現できるような構成となっており、単元末には「みんなでチャレンジ」で対話的な活動で学びを深めるための学習課題が設定されている特徴がある。
	「スキル・アップ」や「資料から発見!」で学習に必要な技能を身につけたり、より深い学びができるよう工夫されている。(p.76, 149)	「学習のまとめ活動」では、探究活動について基礎を確かめ、主体的で対話的な深い学びができるよう工夫されている。(p.74-75)	本時の内容が示されている主題とともに、生徒の興味・関心を誘うサブタイトルが付けられている。(p.66)	ICTを活用した海士町の遠隔授業の写真や地域おこしの一例として松江市のルビーを使ったプログラミング授業の写真や記述など、情報技術の発達が理解できる内容になっている。(p.199, 205)	「日本の諸地域」のまとめ活動で「未来にアクセス」を設け、他分野や「持続可能な社会の実現」に向けて、身近な視点で時事問題を考えることができるよう工夫されている。(p.195, 231)	小学校で学習した事項を「ことば」として提示し、その点を踏まえて地理的な見方・考え方を説明しており、学習を進める際の視点を生徒が理解できるように配慮されている。(p.8, 34)	
G 教育出版	「世界と日本の地域構成」は9時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は58時間の配当となっており、「地域のあり方」を最後の単元を含んでいる。	「学習課題」「確認」「表現」毎時間を設け、本時の問いに対するまとめをしながら学習内容を深めることができるよう工夫されている。(p.118-119)	学習内容に関するコラム「地理の窓」や導入資料や追究のヒントになる「LOOK!」が設けられ、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p.19, 48)	竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際社会の場で話し合いを提案」と記述されている。側注には、地図と写真が掲載されている。(p.21)	他分野と関連のあるところには分野と内容が、他の地理的分野と関連のあるところにはページと内容が示されている。(p.15)	「地理の学習を始めるにあたって」(表紙裏)を冒頭に設け、地理的な見方・考え方、地図の読み取り等がわかりやすく説明されている。(巻頭1-2, p.2-4)	各章や編の冒頭に、学習の見通しが持てるように整理されたページがあり、何を学習すればよいかを明確に示してあり、写真や資料が多く、本文の記述が短くまとめてあり、学習コラムも多く設けてあり、社会科を苦手とする生徒にも取り組みやすい内容になっている点に特徴がある。
	巻頭に地理的な見方・考え方が明示され、学びを助ける「LOOK!」「THINK!」「TRY!」という三本の柱が提示され、何をどのように学ぶかをわかりやすく示されており配慮されている。(巻頭2, 6)	単元末の「学習のまとめと表現」では学習内容が身についたかを確認し、学習の振り返りを3STEP(確認→振り返り→まとめ)に沿って段階的に学習成果を整理しつつ、深めることができるよう工夫されている。(p.76-77)	「地図を活用しよう①～④」(折込ページ)があり、地図を活用して世界や日本の学習をつなぐことができる資料が盛り込まれており、興味・関心をひくよう配慮されている。(p.127-130)	伝統芸能の石見神楽、伝統的漁法のかんこ舟、海士町のロゴマーク、JR三江線の写真など、島根県に関する題材を多く掲載し、過疎化を防ぐ取組の例として紹介している。一方、海士町の位置が地図上に記載されていないので配慮が欲しい。(p.186-187, 192)	6つのテーマで「持続可能な社会に向けて」考察できる「クロスロード」を設けたり、第4章「地域のあり方」で地域の課題や特色をまとめ、社会参画への意識等が高まるよう工夫されている。(p.78-79, 126-127, 276-277)	「まなびリンク」として各編の冒頭にQRコードを提示し、学習内容に関連するサイトにアクセスでき、学習を広げ深めることができるよう工夫されている。(p.5, 131)	
J 帝国書院	「世界と日本の地域構成」は8時間、「世界のさまざまな地域」は41時間、「日本のさまざまな地域」は56時間、「地域のあり方」は5時間の配当となっている。	単元ごとに「写真で眺める」「章・節の問い」「学習課題」「確認しよう/説明しよう」を設け、本時の問いとそれに対するまとめができるよう工夫されている。(p.46-49)	「世界の諸地域」「日本の諸地域」の導入では大きく、鮮やかな写真や親しみやすいイラスト地図が掲載されており、生徒が地域の様子をつかみ、興味・関心が高まるよう工夫されている。(p.46-47, 167)	竹島について、歴史的な経緯や現在の状況などを本文に記載するだけでなく、「地理プラス」というコーナーで昔の竹島の様子(写真)や「竹島の日」が定められた経緯など詳細な記述がある点で優れている。(p.20-21)	各単元でページの下方に、学習内容が小学校や他分野・他教科と関連がある事項が示されており、教科・分野の横断的な学習に対する配慮がなされている。(p.2)	図表の出典・資料年や写真の撮影年(月)、重要な語句の解説があり、細やかな記述がされている点で優れている。(p.18, 20)	単元ごとの「問い」を意識しながら授業を展開できるように工夫してあり、単元末には対話的な学習課題が設定され、深い学びにつながる構成になっていることや、習得した知識や技能を使って対話型の学習活動へ発展させる機会が設けられている点に特徴がある。
	章・節を単元のまとまりとし、学習の見通し・振り返りがしやすいように構成され、問いを構造化し、「章・節の問い」に迫るように工夫されている。(p.48, 62-63)	単元末の「学習を振り返ろう」では、学習した知識・技能を確かめ、思考ツールを用いた学習事項の整理や対話を通して「章・節の問い」に対する自らの考えを深め、学びを主体的に振り返ることができるように工夫されている。(巻頭9, p.181)	地域にみられる課題について、特設単元「アクティブ地理」が新設され、主体的・対話的で深い学びが実践できるように工夫されている。(p.150-151)	出雲大社や石見神楽の写真や現地の人々の「声」、本文中に松江市や津和野町が取り上げられ、交通網の整備が観光客数の増加に関係していることを示すグラフを掲載している。(p.189, 194)	巻頭に「地理的分野の学習の全体像」や「学ぶ意義」、学び方を示し、小学校や他分野とのつながりがわかりやすくなるよう工夫されている。(巻頭5-10)	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)	
O 日本出版	「世界と日本の地域構成」は12時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は60時間の配当となっており、「地域の在り方-宮崎市を例に-」を最後の単元を含んでいる。	単元ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け、問いに対するまとめができ、また、5つの「地理的な見方・考え方」を働かせる練習ができるように配慮されている。(巻頭3-4)	第1編では、写真が多く使われたり、クイズやゲームを取り入れたりするなど、学習に入りやすい仕掛けがなされており、生徒が興味・関心をもって取り組めるよう工夫されている。(p.9)	竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所で取り上げるように提案」と本文記載がある。側注には、地図と写真が掲載されている。(p.20-21)	各単元で「持続可能な地域をめざして」を設け、SDGsに関して文化や防災、自然環境等それぞれの地域に関するテーマを深く学ぶよう構成されている点で優れている。(p.154, 190)	毎時間ワークシートや確認小テスト、動画等が活用できるようデジタルコンテンツが系統立てて配置してあり、個々の学びを支援することができるよう工夫されている。	各章や節において生徒自らが問いを立て、仮説を立てながら検証してけるように資料の選択や配置がなされており、単元のまとめには様々な思考ツールを活用しながら思考力、判断力、表現力を身に付けることができるよう工夫されている点に特徴がある。
	「スキルup」や「資料活用」などで学習に必要な技能を身につけられるように工夫されている。(p.8, 33)	単元末の「まとめと振り返り」では、「編・章・節の問い」に答える活動やポートフォリオを用いて活動を振り返り、学びの自己調整ができるよう工夫されている。(p.216-217)	コラム「地理+α」で現代的な諸課題(最新のトピックや多様性の尊重・SDGsなど)について具体的な事例が紹介されており、地理的事象への理解を深められるように工夫されている。(p.75, 125)	海士町の「島留学」について、見学会に参加する生徒の写真や20歳未満の人口のグラフを掲載し、地域の活性化の一例として紹介している。(p.199)	「深い学びを実現するためのコーナー」として「議論してみよう」を世界・日本の諸地域の単元でそれぞれ設け、学び合いができるよう工夫されている。(p.185)	写真は大きなものや比較的新しいものが掲載され、関連する動画にリンクされるなど配慮されており、またグラフや図が見やすくなるよう配色などの工夫がなされている。	

選定に必要資料

(種目名：社会(歴史的分野))

記号	選定に必要資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	見開き2ページで1時間の授業が構想され、写真や図表などの資料がどのページも同じレイアウトでバランスよく配置されている。本文の行間も広く、また、ふりがなも多い。	各章の導入では生徒の関心をひきやすい「キャラクター年表」を提示し、章末の「まとめの活動」では理解の深まりを確認するために再度年表を確認するなど、基礎基本の定着を進める構成が優れている。(p. 64)	各章の導入では、「小学校の社会で習ったことば」やキャラクター年表で時代を大観できるよう工夫されている。	「もっと知りたい」では、「現代に生きる神話」として、出雲神話や佐陀神能について詳しく紹介されている。(p. 58, 59)	小学校の学習内容は導入にふりかえりを設け、地理的分野、公民的分野と共通して関連が強い内容はマークを記載している。(p. 22, 209)	二次元コードが見開き2ページに配置されており、各時代ごとにまとめられたコンテンツにアクセスできるようになっている。デジタルコンテンツには多様な思考ツールとその使い方の例示が工夫されている。(p. 198-201)	章の学習が課題解決的な学習の構成になっているのに加え、デジタルコンテンツを活用して主体的で深い学びになるよう工夫されている。二次元コードからのデジタルコンテンツには、ワークシート、動画や歴史資料、用語練習やクイズといった内容の豊富さに特徴がある。
	章末「まとめの活動」では、学んだことを整理するために学習課題に適した思考ツールが例示してある。その後、時代の特徴を文章で説明するよう工夫されている。	中世ヨーロッパ(十字軍など)に関する記載が鎌倉文化の次にあり、ルネサンスや宗教改革は「第4章近世の日本」の第1節に記載され、歴史の流れに沿って学習できる構成になっている。(p. 76, 100)	探究課題の解決に向け、着眼点を各ページのキャラクターのセリフで対話的に示すことにより、主体的な学びを支援するよう工夫がされている。	「領土をめぐる問題の背景」では、写真や当時の地図を掲載し、竹島について、島根県への編入の経緯が記載されている。また、韓国による不法占拠や我が国の対応の記載もある。(p. 176, 253)	国語、道徳など、他教科でも扱う学習内容には、教科関連マークがついており、関連を確認できるようにになっている。(p. 51, 231)	各奇数ページに、時代を表すスケールがあり、その時代のページを開きやすいように工夫されている。	
G 教育出版	本文の行間が広く読みやすい。また、写真や図表など資料の間隔も余裕があり、見やすい。	章末の「学習のまとめと表現」は、地図や年表で、基礎的知識を確認してから、スモールステップで時代の特色を考えて、表現できるように工夫されている。(p. 56-57)	歴史ゲームで遊ぼう」では、歴史人物クロスワードやカードづくりなどで小学校の学習を振り返り、興味・関心を持てるようにしている。(p. 4-7)	「歴史を探ろう」では、日本の歴史が取り上げられ、「出雲国風土記」や出雲大社・石見銀山などについて詳しく紹介されている。(p. 52, 53, 107)	例えば、公害の歴史的背景をふまえて、環境保全という視点から持続可能な社会の形成について考察するように、現代の課題を考察する学習が「歴史学習の終わりに」に位置づけられている点が工夫されている。(p. 287-291)	コラム「歴史の技」では、二次元コードから資料や動画を閲覧できるようになっている。(p. 25, 219)	章の学習が見通し・振り返りが意識されており、段階的に思考を深めて課題を解決できる構成になっている。また、章末の「学習のまとめと表現」では、段階的に時代の特徴を整理したり、時代を大観したりできる点に特徴がある。
	見開きのタイトルには、ことわざや和歌の一部が使われたり、新聞の見出し風のものがあったりして、印象に残るように工夫されている。(p. 24, 48)	各節で「節の問い」を記載し、「節をとらえる」では、生徒がキーワードを使って時代を説明できるように工夫されている。(p. 22, 48)	1単位時間の学習ページのタイトルが歴史的事象の特徴をキーフレーズ化しており、学習への興味・関心を持ちやすいよう工夫されている。(p. 28, 66)	コラム「歴史を探ろう」の「隣国と向き合うために」で、竹島について編入の経緯や韓国の不法占拠、政府の対応について記載されている。(p. 266)	「歴史を探ろう」という特集ページではSDGsの視点をういて、当時の人々の暮らしと現在の暮らしとのつながりを考えられるように構成されている。(p. 138-139)	巻末の「世界地図の歴史」では、世界の形が歴史上どのように考えられてきたかについて、興味・関心を高める資料が掲載されている。	
J 帝国書院	見開き2ページにイラストや図表等が豊富に配置されている。本文ページは同じレイアウトでバランスよく配置されている。	「各章や節の問い」、各時の「学習課題」、振り返りが記載され、見通しをもって段階的に単元の課題を解決し、主体的で、対話的な学びを深める構成に優れている。「ふりかえり」では文章で説明する力を養うようになっている。(p. 277)	特集「世界とのつながりを考えよう」は工夫されたワイドなイラストで世界と日本の歴史を関連づけて考えやすくする点が優れている。(p. 168-169)	コラム「未来に向けて」では石見神楽や加納完備を、コラム「地域史」では石見銀山について詳しく取り上げ、荒神谷遺跡や阿国歌舞伎など島根県の題材を豊富に取り上げている点に優れている。(p. 49, 113, 278)	見開きの各偶数ページに、「小学校・地理・公民・他教科との関連」として、この見開きにある語句があげてあり、関連に気づきやすいという点で優れている。	各節ごとに二次元コードから関連するデジタルコンテンツにアクセスできる。多様な思考ツールとその使い方が例示してあり、思考の深まりを支援する工夫がされている。	「タイムトラベル」「世界とのつながりを考えよう」の大きなイラストは、生徒の興味・関心を高めるとともに、本文の説明内容との関連をとてもつかませやすく、着眼点を示すことで時代の特徴を思考・判断しながら見出す点や時代が大観できる点に特徴がある。
	本文から欄外の「解説」に目が行きやすく、解説の内容もわかりやすく、知識が定着しやすいように工夫されている。(p. 66)	「タイムトラベル」という時代の想像図が章の導入に掲載され、時代のイメージを膨らませやすい。また、前の時代との比較によって自分の考えをまとめやすくする点が優れている。(p. 134-135)	「歴史を探ろう」は全11テーマあり、当時の社会を地域の視点から見ることで、日本の歴史を多面的に捉えられるようにしている。(p. 216-217)	竹島について、本文の記載に加え、コラム「日本の領土画定と近隣諸国」に編入の経緯、韓国の不法占拠などが記載されている。(p. 195, 287)	コラム「未来に向けて」では、防災や人種・多文化共生の視点で、現在でも参考になる先人たちの取組が紹介されている。(p. 97, 244-245)	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p. 236-237)	
M 山川出版社	見開き2ページの写真・図表などの資料が豊富であり、資料も大きい。本文も用語解説も説明が丁寧である。	見開き2ページに1~2個の学習課題を示して1単位時間の見通しをもたせ、各時の学習の終末には「ステップアップ」では、新たな課題を提示し、さらに学習内容が深められるようにしている。(p. 250, 276)	「地域からのアプローチ」では、歴史的な事象と関わりが深い都市を取り上げ、各時代の歴史の展開や、文化財保護の取組を踏まえて、理解することで、歴史を学ぶ意味を考えるようになっている。(p. 58-59)	「ヨーロッパ人との出会い」で、石見銀山を示した地図が掲載され、当時の海外における銀の需要と石見銀山の重要性について説明されている。(p. 112-113)	「歴史を考えよう」では、主権者の育成という観点から、普通選挙や日本国憲法について考えられるよう構成されている。(p. 228-229, 260-261)	二次元コードから様々なサイトにアクセスでき、デジタルコンテンツをみることが出来る。	章末のまとめでは、地図や図表を活用し、比較や共通などの視点ごとに明確に整理し、時代の大きな特色を文章でまとめるようになっている点に特徴がある。
	各章のはじめに、日本史と世界史の年表が写真や絵巻資料などともに並記され、世界の動きと関連づけて学習できるよう工夫されている。(p. 62-63)	「歴史を考えよう」や「歴史へのアプローチ」で、絵巻物や江戸時代の各所の絵画などから資料を読み取り、学習内容を深めるよう工夫されている。(p. 76-77, 144-145)	「□世紀の世界」という見開きページでは、同世紀に世界で起きたことや各地の様子などについて、世界地図やイラストで俯瞰できる点が優れている。(p. 48-49)	「歴史へのアプローチ」の「日本の領土の変遷」では、竹島の島根県への編入と韓国による不法占拠の経緯について記載されている。(p. 268, 269)	「歴史へのアプローチ」では、琉球の歴史と文化、アイヌの歴史と文化が詳しく紹介され、日本における文化の多様性の背景が理解できるように構成されている。(p. 88-91)	人名・事項ともに索引が充実している。	

選定に必要な資料

(種目名：社会(歴史的分野))

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
0 日本 文教 出版	見開きごとにそのページ の特色をサブタイトルに 入れ、理解を助ける工夫 がされている。 (p. 24)	見開き2ページ冒頭に見 方・考え方が明示され、 各編が、時系列・推移・ 比較・つながりの4つの 視点や方法を、問題解決 の道しるべとしながら学 習を進める一貫した構成 に優れている。(p. 88)	「まとめと振り返り」で は、デジタルコンテンツ で思考ツールの使い方を 生徒自らが確認しながら まとめの活動を進めるこ とができる。(p. 257)	コラム「地域に学ぶ」で は、石見銀山について記 載されており、ヨーロッ パでもその名が知られ、 戦国大名があらそいを繰 り広げたことが記載され ている。(p. 117)	『「歴史との対話」を未来 に活かす』では、現代的な 諸課題である、災害、政治 参加や世界平和について歴 史的背景及び今日までの取 組をふり返り、歴史をふま えて解決を多面的・多角的 に考えることができるよう になっている。(p. 292- 299)	見開き2ページごとに二次 元コードからデジタルコン テンツにアクセスできる。 全ての節の導入ページに前 節の確認や節の問いを解 決することに役立つ動画 を視聴することができる。 また、学習履歴を記録し、 学びの自己調整が図れる。 (p. 67)	課題解決をすすめる中 で、対話的・協働的な学 びを取り入れて考えを深 める活動がスムーズに行 える構成になっている。 また、デジタルコンテン ツが充実しており、生徒 が主体的に学ぶ点に特 徴がある。
	各時代のまとめでは、 「時代の特色を探る」 コーナーで、習得した知 識を活用し、各時代の特 色を自分の言葉で表現す ることをねらいとした活 動ができる点に優れてい る。(p. 257, 291)	市民革命の前のページに 産業革命にが記載されて おり、外国船接近の背景 について理解しやすいよ うに工夫されている。 (p. 158, 159)	「確認小テスト」のデジ タルコンテンツで重要用 語を確認できるように なっており、発展的に取 り組めるようになってい る。(p. 72- 73)	「歴史を掘り下げる」の 「冷戦終結後の近隣諸国 との関係」では、竹島問 題の経緯と現在の状況に ついて記載されている。 (p. 286 - 287)	「地域調べ」では公害克 服の歴史について調べ るよう設定されており、 その時代を開きやすいよ うに工夫されている。	各奇数ページに、時代を 表すスケールがあり、そ の時代を開きやすいよ うに工夫されている。	
Q 自由 社	人物の写真が大きく鮮明 であり、人物を印象づけ ている。	各章のまとめとして、調 べ学習や復習問題、まと め図の作成などの様々な 方法を準備し、時代の特 徴を考え、大観しやす い。(p. 144-148)	「外の目から見た日本」 では、各時代の日本を世 界史的な視点から捉えな おすことで、学びを深め るようになっている。 (p. 116, 143)	コラム「もっと知りた い」では国譲り神話と古 代人について、2ペー ジにわたって記載されて いる。(p. 40-41)	「調べ学習のページ」で は、修学旅行への関心を 高め、歴史的な見方・考 え方を深められるように 配慮されている。 (p. 64-65)	多くの歴史的人物が取り 上げられており、人物を 通して歴史的な事象を学 べるように工夫されてい る。(p. 222, 246)	各章末には、「調べ学習 のページ」「復習問題の ページ」で理解を深め、 「時代の特徴を考える ページ」「対話とまとめ 図」のページにより、時 代の特色をとらえさせる 点に特徴がある。
	本文の注釈が詳細であ る。また、歴史地図や関 係図についてもすっきり として見やすい配色や、 線の表示であり、内容に 着目しやすい点が優れて いる。(p. 172)	各見開きの奇数ページの 下に「チャレンジ」があ り、その見開きのまとめ としての学習ができるよ うに構成されている。 (p. 75)	最近の国際情勢と関連さ せた令和時代の年表資料 がある。(p. 279)	竹島の島根県編入や韓国 の不法占拠の経緯につ いて詳しく本文に記載さ れている。コラム「李承晩 ラインの悲劇」について も記載されている。 (p. 263)	「もっと知りたい」の 「エコロジー都市江戸」 では、江戸の水道事情や リサイクルが記載され、 SDGsについて考えるよ う配慮されている。 (p. 142)	歴史学習の終わりに「日 本の歴史の特色は何か」 をスピーチ原稿としてま とめる課題を設定してい る。(p. 288)	
R 育 鵬 社	見開き2ページに豊富な 資料を配置し、行間にも 余裕があり、読みやすい 構成となっている。	各章の導入「〇〇の世界 へようこそ！」では、絵 画資料を掲載し、その時 代の特徴や他の時代との 違いをとらえることがで きるよう工夫されてい る。(p. 26-27, 66 - 67)	各章の導入では、鳥の目 でイラストを、虫の目で 絵画資料を見て、歴史を 大観できるよう工夫され ている。(p. 4, 24 - 27, 64 - 67)	「歴史ズームイン」で は、神話について記載さ れており、神代神楽や出 雲大社の写真が掲載され ている。(p. 54 - 55)	「歴史ズームイン」の 「震災の日本史」や「感 染症の歴史」では、歴史 の記憶と教訓から未来を どう生きていくのかを考 えることができるよう工 夫されている。(p. 274 - 277)	各章ごとに二次元コード があり、学習内容に関連 する動画を閲覧したり、 情報を収集することがで きるようになっている。 (p. 245)	「人物クローズアップ」 で多くの人物が取り上げ られ、その時代の背景や 人々の思いについて知 り、様々な視点から歴史 をとらえることができる 点に特徴がある。
	「歴史ビュー」「人物ク ローズアップ」「歴史 ズームイン」などで、多 面的・多角的な視点で考 察ができるようになって いる。	化政文化が天保の改革の 後に記載されていて、時 系列で理解しやすいよ うに配慮されている。 (p. 138-139)	巻頭の「日本の美の形」 では、各時代の人々の暮 らしや日本人の美意識を 取り上げ、我が国の伝統 文化への興味や愛着がも てるように工夫されてい る。	「歴史ズームイン」の 「日本の領土をめぐる問 題」で、竹島の島根県編 入の経緯や韓国の不法占 拠について記載されてい る。(p. 256-257)	現代的な諸課題の歴史的 背景をあきらかにして公 民的分野の学習につなぐ ように構成している。 (p. 270)	歴史の総まとめとして「歴 史新聞をつくらう」では、 作業的・体験的学習で理 解を深め、巻末の「日本 の歴史を大観する」では 400字の文章まとめて自 分の言葉で表現する力を 養えるようになっている。 (p. 280- 281, 282-283)	
S 学 び 舎	OA 4版で写真や図表が 大きくて見やすく、実物 大の写真資料も掲載され ている。また、紙面に余 白が多く、本文や資料が 読み取りやすいよう配慮 されている。(p. 124- 125)	○各章の扉で、世界地図 と歴史的事象や遺物を掲 載し、日本と世界のつな がり意識できるよう工 夫されている。(p. 10- 11, 36-37) ○各章のまとめで、歴史 上の人物になってインタ ビューに答えたり、漫画 で時代を表現したりする など、様々な表現活動を 通して学習内容を深める ことができるよう工夫さ れている。(p. 135, 245)	○「歴史を体験する」で は、火おこしや糸紡ぎな どの体験活動や資料をも とにした対話的な活動が 紹介され、興味・関心を 喚起して学習を深められ るよう工夫されている。 (p. 34-35, 158-159) ○見開き2ページの各タ イトルページの終末に は、興味・関心を高め、 学習内容をさらに深める ことができるコラムが多 数掲載されている。 (p. 47, 83)	○「銀と戦国大名」で は、石見銀山の開発と交 易、戦国大名の利権争い について扱われている。 4章の導入では世界の様 子とともに実物大の石見 銀が掲載されている。 (p. 82, 87) ○竹島について「戦場は 中国だった-日露戦争-」 の側注で、日本政府が島 根県への編入を閣議で決 定したことが記載されて いる。(p. 189)	○「現代の日本と社 会」では15のテーマを設 け、歴史を今日の課題と 結びつけ、よりよい社会 の実現に向けて考えられ るよう構成されている。 (p. 266-267, 276-277) ○現代史のまとめの「歴 史を体験する」のページ で、わが家の100年年表 を作成する活動が紹介さ れており、自分と歴史と のつながりを考えられる よう工夫されている。 (p. 278-279)	○エリザベス=フリーマ ン、楠瀬喜多、平塚ら いてうなどを取り上げ、 歴史の中の女性の活躍に 着目できるよう工夫され ている。 (p. 139, 170, 206) ○巻頭に世界地図が掲載 され、主な史跡や関係都 市の位置を確認できるよ う構成されている。	○写真資料や絵画資料が 数多く掲載され、興味・ 関心を高めるとともに、 資料を読み取る技能が身 に付けられるよう構成さ れている。(p. 66, 164- 165) ○各章の扉で、テーマに 沿った世界の様子がわか る写真や絵画が掲載され ており、各地域を比較す ることで時代の特徴がと らえられるよう工夫され ている。(p. 86-87, 160- 161)
	○写真や絵画資料が多く 掲載され、資料の読み取 りとともに、まとめ学習 で絵画資料を説明する活 動や絵画資料をより詳し く調査する活動を取り入 れている。(p. 85, 104- 105)						

※参考資料(島根県教育委員会作成「令和7年度使用中学校教科用図書を選定に必要な図書」より引用)

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：社会(歴史的分野))

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他	
V 令和 書籍	時代名イコール節名になっており、表記がわかりやすくなっている。	内容のまとめごと「課題」を示し、それに対する解説を読み、答えを考えるという構成になっている。(p.19)	冒頭のページの「この教科書の課題」において、歴史のとらえ方と歴史を学ぶ意味について記載し、歴史を自分ごととして捉えることができるよう配慮されている。	「鉄砲の伝来と南蛮貿易」で、石見銀山が当時の世界地図に載るほど有名であったことが記載されている。(p.190)	「平家物語」や「新古今和歌集」が原文のまま記載されている。(p.142-143)	天皇と日本の歴史との関係に対する関心が高まるような本文の記載になっている。(p.6-9)	各章末に、「新聞にまとめてみよう」「ディスカッションをしよう」のような様々な方法で自分の考えを表現できる点に特徴がある。
	「国史を学ぶにあたって」のページでは、小学校の内容との関連が記載され、歴史学習にスムーズに入れるように工夫されている。(p.10-16)	政権担当者・出来事対照表があり、人物と出来事との関連が理解しやすい。(p.462-463)	コラムを1～2ページにわたって大きく詳しく記載し、本文の内容を深めるとともに、興味・関心を高めるよう配慮されている。(p.227,355)	竹島の領有権の確立と閣議決定による島根県への編入、韓国の不法占拠について詳しく記載されている。(p.303,423)	巻末に「日本美術図鑑」を掲載し、各時代を代表する美術品が紹介され、日本の文化の特色の理解につながる工夫がみられる。	巻末に各時代の日本や世界の地図の資料が掲載されており、同時代の日本や世界の動きについて関心をもてるように工夫されている。(p.465-488)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：社会(公民的分野))

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
A 東京書籍	図表や写真等の資料が多く、資料を活用した学習が意識されている。また、どのような視点で考えるかをマークで示し、主体的・対話的で深い学びにつながるという点において特に優れている。(p.10-11)	各章のはじめに導入の活動、探求課題を設定し、章末に「確かめよう」「ふり返ろう」「深めよう」のステップで知識、主体的に学習に取り組む態度、思考・判断・表現を評価する構成になっている点が特に優れている。(p.6-7, 32-35)	各章のはじめにある「導入の活動」では、市長の選出やコンビニの経営等をシミュレーションを通して学ぶことで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p.78-79, 130-131)	竹島問題について、特設ページを設け、韓国による不法占拠の動き、国際司法裁判所への提訴の動きを、地図や新聞記事を用いて掲載している。(p.186)	他分野・他教科との関連する内容であることが分かるリンクマークが示されており、さらに二次元コードによってその内容が確認できるなど、教科を横断して多面的に学習できる点で優れている。(p.126)	カラーユニバーサルデザインに対応し、グラフや地図は、色覚に特性がある生徒でも見分けられるような色の組み合わせを採用する等、多様性に配慮をしている点で優れている。(p.10, 11)	思考を深めるために資料等を充実させたり、各章のはじめにある「導入の活動」ではシミュレーションを通して学んだりする等、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。また、二次元コードを多用し、自分の興味・関心があるデジタルコンテンツに容易に接続できるようになっており、紙とデジタルの両方から学びにアクセスできるという特徴がある。
	「もっと知りたい!」や「未来にアクセス」のコラムでは、生徒の学びを広げたり、深めたりする資料や事例が多く示されている点が優れている。(p.9, 115)	毎時間の学習では、写真・図版と学習課題が示され、「チェック」「トライ」の2段階で学習内容の定着が図られるよう工夫されている点が特に優れている。(p.8-9)	ICTの日常的な活用を促すために、「デジタルコンテンツを活用しよう」で説明が示され、見開き2ページの小單元ごとに二次元コードがあり、学習のまとめ等ができるよう工夫されている。(p.78-79, 130-131)	成年年齢が18歳に引き下げられたことを受け、18歳と20歳でできることの違いや、選挙や契約について取りあげ、主権者意識や消費者意識を高めるよう工夫されている。(p.60, 90, 138)	終章では、持続可能な社会のために自分ができることをレポートをまとめる構成になっており、地域課題の解決を取り上げる事例が挙がっており、社会参画につながる内容となっている。(p.218, 219)	Dマークによってデジタルコンテンツへの連携が確認でき、コンテンツを通して思考を深めたり、探求課題を追及したりできるような工夫がなされている。(p.20, 21)	
G 教育出版	図表、写真等の資料が多く、内容の難しいものには解説も併記されている。また、本文や用語の解説が側注でなされ、理解を支援するよう工夫されている。(p.62-63)	各章の「学習のはじめ」で、章のおおまかな学習内容と、現代社会の見方・考え方を示し、章末の「Hop!」「STEp!」「JUMp!」の3段階の課題により内容の整理や学習テーマについての考察を深めるよう工夫されている。(p.14-15, 36-38)	各章の「学習のはじめ」では、中学生が学ぶ姿を漫画で取りあげたり、給食センターに関する話題等、生徒の身近な題材を使ったりすることで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p.40, 130)	竹島問題について、本文に「韓国政府が領土問題の存在を否定」と記載され、竹島の写真とともに側注では、「李承晩ラインの設定」等の竹島問題の経緯について解説がされている。(p.199)	各章の「学習のまとめと表現」にはSDGsに関連した内容が設定されており、持続可能な社会の実現に向けて考えを深めていけるよう工夫されている。(p.34, 35)	各章の「ウォーミングアップ!公民」では、自分の考えを記述する箇所が多くあり、表現力を身につけるような工夫がなされている。(p.85)	SDGsについて「公民の学習を始めるにあたって」や各章のまとめで大きく取り上げており、持続可能な社会の形成にむけて、主体的に考えを深めるよう工夫し、導入では公民で学ぶ主要内容と学習の見通しや学び方、ノートづくり等、生徒が主体的に学習に取り組めるよう丁寧に記載されているという特徴がある。
	「公民にアプローチ」では情報収集や思考ツールを使った情報整理の方法が示され、「公民の技」では技能や表現力を高める活動が盛り込まれている。(p.8-11, 32)	見開き2ページが、導入、資料、「学習課題」、「本文」、「確認」、「表現」の一連の流れで構成されており、見通しをもって学習をすすめることができるように工夫されている。(p.16-17)	1人1台端末に日常的な活用を促すために、「まなびリンク」の二次元コードが各章のはじめやまとめの活動に用いられている。(p.5, 13)	資料中に海士町の島留小学や大田市の中村ブレイスの取組、島根県の鯨食文化の記載があり、地域を通して社会を考えさせる内容となっている。(p.122, 168, 228)	見開きの左ページ下に小学校、他分野、他教科との関連を示す「関連マーク」が示されており、学習の連携や振り返りを図る工夫がされている。(p.24)	ノートの取り方について取り上げ、チェックポイントを意識することで、振り返りや家庭学習につながるよう工夫されている。(p.7)	
J 帝国書院	図表、写真等の資料が大きく示され、対話や資料活用のポイントが示されている。また、本文の補足や解説を側注に示し、社会的事象を多面的にとらえられる点で優れている。(p.51, 104)	各章のはじめに「章の問い」を提示し、「学習を振り返ろう」では、2つのステップで「章の問い」を考える構成となっており、思考ツールの活用や対話を通して主体的・対話的で深い学びができる点において優れている。(p.2-3, 24-25)	各章のはじめのイラストは、学習内容と関連する社会のさまざまな場面をとらえる内容となっており、興味・関心を高め、資料に集中できるように工夫されている。(p.30-31, 74-75)	竹島問題について「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所に委ねよう」と韓国に複数回提案」と本文に記載され、側注では、地図で韓国、島根県と竹島の位置関係を示している。(p.187)	「アクティブ公民」では話し合いによる合意形成を目指す活動を通して、実社会に関連した課題の解決に向けた選択・判断に取り組めるという点で優れている。(p.42, 43)	成人年齢に引き下げに合わせて「18歳への準備」が設定されており、主権者としての社会参画の意義についてさまざまな面から理解できるよう工夫されている。(p.84, 85)	豊富なデジタルコンテンツや、地図帳活用等、教科書本文以外の情報を活用し、学びを深めることができることと、「課題探究学習」が第5部として独立しており、既習事項を生かした学習内容が示されている。また、「高等学校への準備」として、「公共」とのつながりを意識できるという特徴がある。
	「対話」という学習活動が小單元のはじめに設けられており、ペアやグループでの対話を通じて、本時の学習内容にスムーズにつながるよう工夫されている。(p.4)	見開きの右下には、導入で取り組んだ活動のどの部分と関係しているのかが記されており、本文への理解が深まるよう工夫されている。(p.37)	各章・各節のはじめに二次元コードの活用について説明があり、学習内容に関連するデジタルコンテンツにもアクセスできる等、個別最適な学びや1人1台端末の日常的な活用にもつながるよう工夫されている。(p.2, 4)	「選挙制度とその課題」では島根、鳥取の参議院選挙の各区についてグラフ等で示しており、今後の選挙制度のあり方や課題について考えられるように工夫されている。(p.82)	第5部「課題探究学習」では、各章末にある「探究学習への準備」を活用したレポート作成が提起されており、各章で学習した現代社会の見方・考え方を生かした考察の例が示されている点で工夫されている。(p.215-223)	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)	
O 日本教出版	図表、写真等の資料が多く、本文中のことがらには関連する資料番号や教科書ページが記載されている。また、ページ下に「各節の問い」が示され、授業を進めるうえで資料や問いを意識するよう工夫されている。(p.10)	「章のまとめをしよう」では、新聞記事やニュースを題材とした「ニュースを見方・考え方から見よう」の項目があり、現実の課題に現代社会の見方・考え方を生かすよう工夫されている。(p.22)	各編章のはじめに身近な例を描いた漫画を用いて学習内容との関係について気づきを促し、意見の交流を通して学習への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p.6-7)	竹島問題について、「日本固有の領土」「不法に占拠」「国際司法裁判所で解決することを提案」と本文に記載がある。特設ページでは、竹島をめぐる歴史的背景が記載され、「竹島の日」式典の写真が掲載されている。(p.194-196)	巻頭で地理・歴史、巻末で高校の公民科や他教科との関連について写真や具体的な事例を用いて示している。(巻頭3, 巻末1)	「まちのバリアフリーを探索しよう」のページでは実際に点字が打刻されており、学習内容を深められるよう工夫されている。(p.56-57)	デジタルコンテンツが豊富で二次元コードでアクセスしたポータルサイトによって、学びの記録や思考の変容を把握できたり、生徒が抽象的な事象を具体的にイメージできる思考ツールやイラスト教材を豊富に掲載したりと生徒が主体的に学習に取り組めるようにしてある点に特徴がある。
	章末の課題や「アクティビティ」では思考ツールを用いた情報整理や思考の流れが示され、場面に応じた思考活動ができるよう工夫されている。(p.81, 87, 127, 巻末2)	各単元に、「学習課題」と「見方・考え方」が示されており、授業で着目するポイントや、何について考えるのかについて見通しをもつよう工夫されている。(p.8)	「15歳は『子ども』?それとも『大人』?」や、「少年法における18歳と19歳のあつかい」で、生徒の年齢に近い事例を扱い、主体的な学びができるような題材を示している。(p.72-73, 109)	「チャレンジ公民」では章の学習内容に関わる課題を考察・構想し、町づくりや社会保障等について主体的に考えさせる内容になっている。(p.34)	「明日に向かって」では、地域課題や将来について、記述欄や思考ツールを活用し考え、社会参画を促す内容となっている。(p.16, 17)	各章の冒頭に二次元コードが示され、学習内容に関連する動画を閲覧したり、情報を収集したりできるようにしており、ICTを活用した学習を促す工夫がされている。(p.8)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：社会(公民的分野))

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
Q 自由社	図表、写真等の資料が大きく、見やすく、一目で資料を確認できたり、裏表紙に我が国の領域の地図が乗っていたりし、資料や地図を調べやすいように配慮されている。(p. 2, 裏表紙)	各小単元で内容に関する資料と学習課題が示されるとともに、「ここがポイント!」として本時のまとめを示し内容の定着を促すよう工夫されている。(p. 2-3)	「もっと知りたい」では、既習事項について、過去の歴史や文化等を多様な視点から解説することで、学びを深めるよう工夫されている。(p. 14-21)	竹島問題について、本文および特集ページにて、竹島問題の概要や、韓国政府の見解、それに対する日本の指摘と反論も含め記載されている。(p. 170-171)	「ミニ知識」というコラム欄では重要語句や学習内容のヒントになる記事が書かれており、理解が深まるような配慮がなされている。(p. 3)	全72単元が通し番号となっており、進度を把握しやすいよう工夫されている。	グラフなどの図表や写真が大きく提示され、生徒が興味関心をもって資料からの読み取りができるように工夫されていたり、「アクティブに深めよう」や「もっと知りたい」などの特設ページが豊富で重要なことがらについて、さらに深い学びができるよう配慮されている点に特徴がある。
	「アクティブに深めよう」では意見の整理方法や新聞の見方等が示されており、身に付けたい技能を高められるようになっていく。(p. 40-41, 94-95)	章の終わりの「学習のまとめ」で最重要語句を確認し、「学習の発展」では課題を複数設定し約400字でまとめることで、学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。(p. 42)	教科書に登場するキャラクターのつぶやきや、「やってみよう」の課題により、授業に置いて個人やグループで考えたり話し合ったりするためのポイントが示されている。(p. 7)	統合災害情報システムで「DiMapS」に関する資料や「地方自治と防災・防衛」の記載等、防災行政の取組について多面的に記載されている。(p. 4, 116-117)	「課題の探究」ではディベートへの実践によって社会のさまざまな課題に対して主体的に取り組む態度や合意形成の仕方などを学べる内容となっている。(p. 218-223)	巻末の特集では日本の伝統的工芸品が紹介されており、地理分野の学習に関連とともに日本の伝統技術について考えるきっかけとなっている。(p. 260, 261)	
R 育鵬社	図表、写真等の資料が多く、本文中のことがらに関連する資料番号や教科書のページが記載されている。各ページに節の課題が記載されており、毎時間の課題解決を意識して学習に臨むことができるよう工夫されている。(p. 14)	各章を「課題をつかむ」「課題について調べる」「課題についてまとめ・表現する」という問題解決型の学習を意識した構成とし、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すよう工夫されている。(p. 4-5)	各章の冒頭には「どうして〇〇を学ぶの?」が設定されており、学習意欲が高まるよう工夫されている。(p. 38)	竹島問題について、特設ページを設け、キャラクターが問いや疑問をつぶやくことで、視点をもって考えることができるよう工夫されている。(p. 190-193)	巻頭の「持続可能な開発目標(SDGs)」では17のゴールを示し、教科書の学習内容について、その中のどれに当たるかを考えながら進めることができるよう工夫されている。(巻頭1, 2)	「なぜ『公民』を学ぶのか」では、各分野の関係を概念図で示すことで、分野間のつながりを意識できるように工夫されている。(巻頭3)	見開きの左上に、本時のテーマ、節の課題、本時の課題が一目でわかるように記載されており、見直しをもって学習ができるようにされていたり、各章に「学習の入り口」と「学習のこれから」を設け、さまざまな社会事象を自分事としてとらえられるように配慮されている点に特徴がある。
	巻末の「学習資料」では、「法令集」や「用語解説」に紙面を多く使って詳しく記載し、生徒の主体的な学習に向けて配慮されている。(p. 218-252)	「入り口」で章の学習の動機付けをし、「これから」で章の学習を振り返り、さらに学びを深める課題を設け、章を通した学習が展開できるよう工夫されている。(p. 118-119, 168-169)	「やってみよう」では、個人やグループで取り組む活動が設定されている。「人生をデザインしよう」では、ライフプランを立てながら経費等をシュミレーションして経済との関わりを学ぶことができるよう工夫されている。(p. 166-167)	法の下での平等やさまざまな人権課題についての本文や特設ページを参考に、差別のない社会を築くにはどうしたらよいか考えられる内容となっている。(p. 58-63)	地理・歴史での既習内容に関連するものについては、地理や歴史のマークが示されており、振り返りながら学習できるようになっている。(p. 46)	「学習を深めよう」ではさまざまなメソッドが紹介されており、社会事象を多面的・多角的に考え、さまざまな課題について話し合ったり、探究したりできるような配慮がされている。(p. 202, 203)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：地図)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
A 東 京 書 籍	A版176ページで、大きな紙面になっている。関東地方のページが多めに扱われている。UDフォントで読みやすい字が採用されている。	各地域ごとに海底の様子もわかる大きな鳥観図がある。主題図は大きめに作成してある。資料は教科書の内容に合わせて用意されている。違いや時代による変化のわかる写真やグラフが多く、社会科としての気づきに役立つ資料が工夫されている。	ミツバチーズというキャラクターによる地図を深く読み取るためのヒントとなる問いが設定され、生徒が取り組みやすいよう工夫されている。	巻末に日本の範囲や領有をめぐる課題についてわかるよう写真入りでまとめている。竹島についても説明入りで紹介されている。(p.171-172)	京都、大阪、奈良、神戸の拡大図があり、修学旅行事前学習に役立てることができる。(p.91-94)	各地図や字が小さめであり、色合いは抑え目の色調となっている。また、降水量分布の図の色合いを青系統に統一するといった配慮がほしい。	ほぼすべてのページにQRコードやキャラクターによる活用のヒントが載せられており、生徒が利用しやすくなるための工夫がなされている。また、主題図、写真、資料の選定に工夫されており、生徒に気づかせ考えを深めさせる構成となっている点に特徴がある。
	持続可能な開発目標についての説明がなされている。環境問題について、2ページ扱われている。写真やわかりやすい図が使用され、問題意識を持たせる内容になっている。(p.13-14)	「ジャンプ」コーナーを設け、1つの資料を他のページの資料と関連付けよう工夫されている。(p.13)	日本の統計において帯グラフを部分的に使って視覚的にわかりやすくなるよう配慮されている。	中国四国地方では交通の変遷についてわかりやすい資料が用意されている。(p.82)	自然災害について見開き2ページで載っている。ハザードマップと実際の豪雨災害時の浸水推定図が併記してありハザードマップの重要性について理解しやすい。東日本大震災における地震や津波の資料がある。(p.135-136) (p.118)	デジタル地球儀やデジタルマップ、景観写真などの豊富なQRコンテンツが用意されており、授業や家庭学習に活用できる。	
J 帝 国 書 院	A版198ページで内容豊富である。大きな紙面になっている。UDフォントで読みやすい字が採用されている。	立体的かつイラスト入りの大きな鳥観図が所々に配置されており、地域的な特色や人々の生活がとらえやすくしてある点が優れている。(p.29-30)	「地図で発見」のコーナーが設けてあり、具体的な問いにより地図や資料を読み取ることができるよう工夫されている。	日本列島の大きな図があり、竹島の位置を把握しやすい。竹島の写真も用いられている。(p.81-82)	自然災害について4ページにわたって載せられている。ハザードマップと実際の豪雨災害時の様子が併記してありハザードマップの重要性について理解しやすい。プレートについても理解しやすくなるよう工夫されている。(p.159-162)	地図が大きめで色合いもわかりやすいものとなっている。字の大きさも適切。図も色調がよく、見やすい。降水量分布の図は色合いが青系統が主となりわかりやすい。	大きさや色合い等、地図がわかりやすくできている。イラストや立体図も活用した資料も豊富である。また、QRコンテンツも動画やクイズなど充実している。授業での補助資料としてだけでなく、テーマ学習や家庭学習等、様々な生徒の学びに対応できる点が特徴である。
	持続可能な社会に関して6ページを割いている。環境問題以外の問題点についても扱われており、持続可能な社会について広く考えさせる内容である。また、生活、文化について写真やイラストを用いて詳しく扱われている。(p.9-14, 19-22)	各地域において、様々な資料が用意されており、どのような授業にも対応できる。「瀬戸内海周辺の歴史」「本州中央部と五街道」など歴史と関連させる資料も用意されている。(p.93-94, 117-118)	写真やイラスト、立体図など資料の種類が豊富に使用されており、地理への興味・関心を高めている点が優れている。	「瀬戸内海周辺の歴史」に関する中国四国地方の大きな鳥観図が用意されている。石見銀山やたたら製鉄にも触れることができる。(p.93-94)	京都市や大阪市、奈良市の拡大図があり修学旅行事前学習に役立てることができる。(p.109-114)	動画や映像資料などのQRコンテンツが用意されており、授業や家庭学習に活用できる。	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：数学)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	「デジタルコンテンツD」の使い方では、どんな場面でどのようなコンテンツを使うと効果的なのか記載されており、授業でも自学自習でも活用できるように工夫されている。	1年「素因数分解」は自然数の範囲で考えるため、負の数を学習する前の0章で扱い、内容の配列が配慮されている。	「章のとびら」では生徒の関心・意欲を高めるため日常生活の場面を1コマのイラストと「問いかけ」で提示し、生徒が解決の必要感をもって主体的に取り組めるように工夫されている。(2年p35, 161)	章末問題B「活用の問題」では、SDGsに関する問題や設ける等、現代的な課題と関連する素材を取り上げ、現代的な諸課題への対応を図ることができるように工夫されている。(2年p. 56, 94, 191)	「数学の自由研究」などでは、日常生活や社会で数学を活用する題材、他教科の学習で数学を活用する題材を取り上げ、数学の有用性が実感できるように配慮されている。(2年p. 56, 94, 191)	仕事の中で数学を活用している人を紹介し、生徒も数学を用いた日常の問題解決を体験できるように工夫されている。(3年p. 122-123)	端末を使って、みんなで使う場面・友達どうして使う場面・自分で使う場面と分けられており、授業でも自学自習でも使えるという特徴がある。また、身のまわりとつながる・社会とつながる・小中高とつながることが感じられるように、意識してほしい箇所に「MATH CONNECT」のアイコンが配置されているところに特徴がある。
	学習した内容を細かな単位(クイックチェック)では、確認できる問題が新設されており、つまづきを早い段階で見つけられる点が優れている。(1年p32など)	「深い学び」のページで習得した知識や技能を用いて、生徒が解決したくなる問題場面が用意されており、題材の配列が配慮されている。(3年p. 33)	「数学×仕事」では相似の性質と3Dアート関係など、社会の中の数学の活用場面を取り上げ、社会への興味関心や主体的に学習する態度を育む工夫がなされている。(3年p. 162-163)	QRコンテンツ「マイ教科書・マップ」では、都道府県ごとの紙面やデジタルマップを用いて、いろいろな地域の素材を扱える点において優れている。(1年p. 192)	生徒の個性を尊重する主体的な学習を大切にすために、「深い学び」では、問題解決の過程において、協働して取り組む態度が養えるように工夫されている。	正多面体を作ることができる紙教具が用意され、操作を通して立体図形の特徴を確かめられる点が優れている。	
B 大日本図書	登場人物が明確でわかりやすいヒントを与え、生徒が自分で教科書を読み進めたり、生徒の思考を引き出すたりする際に効果的な指導ができるよう配慮されている。(全学年)	導入課題「考えよう」は、小問のステップに沿って考えることで、学習活動の課題を解決するための見通しをもち、基礎的、基本的な知識・技能や概念形成と学力が身につくことができるように工夫されている。(教科書全体)	「もっと数学の世界へ」では、「課題学習」「1年の復習」「補充問題」「総合問題」などが設けられ、生徒が様々な問題に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 201 - 205, 218 - 227)	「MATHFUL」では、数学の歴史や数学者、美術や音楽などの芸術分野との関わりを紹介し、日常生活や社会と数学を関連させ、数学への興味や関心を高めることができるよう配慮されている。(p. 65, 199, 206 - 213)	生徒に教科書を読み取り易いように、1時間の内容が「めあて」から1ページ、または、見開き2ページで見やすく配置されているところが優れている。(全学年)	「例」と「活動」で学習内容が明確化され、「活動」の場面で、登場人物のコメントをヒントに課題を生徒自らが考え、解き進められるよう構成されているところに特徴がある。また、「章のふりかえり」「章末の力をのばそう」「活用・探究」があり、教科書末にも「もっと数学の世界へ」があり、生徒が自身の定着や興味・関心に沿って学習を進められ、繰り返して学習する機会が得られる点において特徴がある。	
	「プラス・ワン」「力をのばそう」「活用・探究」「補充問題」は、生徒一人ひとりが自分で取り組む課題であるとともに、生徒個人の理解度に応じた指導のために、活用できるように配慮されている。	1年1章「数の世界のひろがり」で、素数などについて学んだあと「正の数、負の数」の学習につながるよう、内容の配列が工夫されている。	「学びにプラス」では高校数学とのつながりを意識できる題材を章末に取り上げ、生徒が興味・関心を持てるように配慮されている。(3年p. 43, 194)	入試問題でも頻繁に取り上げられる図形と動点に関する内容が例として取り上げるよう工夫されている。(3年p. 127)	「社会にリンク」では、社会と数学をつなぐコラムや問題が扱われ、日常生活や社会の中の数学に気づくことで数学の良さを実感できるように配慮されている。(2年p. 39)	付録「1年のまとめ」「2年のまとめ」があり、切り取って次の学年でも活用できるよう工夫されている。(1, 2年付録p. 1-4)	
E 学校図書	本文や「例1」、「問1」などの程度は、易から難へと段階的に学習目標が達成できるよう配慮されている。図、式、説明図、吹き出しなども生徒の発達に即し、理解の手助けとなるよう配慮されている。(2年p132 - 135)	2年「連立方程式」では、身近な遊園地でのチケットと乗り物の場面から導入し、既習の内容を活用しながら新しい内容を解決する学習につながるよう構成の配慮されている。	「正しいかな?」QRコード「パトロール隊」で生徒のつまづきに配慮し、問題解決の過程などを説明する力が不足していることへの対策として、「説明する力をつけよう」を新設し、話し合いを通して思考力・判断力・表現力を育むよう工夫されている。	「さらなる数学へ」では、巻末の「数学の歴史の話」において教科横断的な課題を設け、高校数学の内容を意識した探究学習ができるよう配慮されている。(2年p. 237)	学びを振り返ることができるよう、章の学習後「できるようになったこと」をチェックしたり、「さらに学んでみたいこと」を記述したりする欄が設けられているところが優れている。(1年p. 151)	「計算力を高めよう」では類型別に問題を設定したり、章末が「基本」「応用」「活用」「発展」と、学習内容の定着を図る工夫ができる点において特徴がある。また、生徒が話し合い活動が取り入れやすいよう、「説明する力をつけよう」では、他者にわかりやすく説明するにはどんなことが必要なのかを考える場面を設定したところに特徴がある。	
	各領域の学習に入る前に「ふりかえり」を設定し、既習内容を確認しながら学習を進められるよう配慮されている。	学習した内容を簡潔にまとめた「どんなことがわかったかな」と次時へのつながりとなる「次の課題へ!」が明記され、学習の流れがわかる点において工夫されている。(3年)	関数の題材の「リレーのバトンパス」や「観覧車の動き」など取り上げられる題材が、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年p. 124-126, 130)	入試問題でも頻繁に取り上げられる「放物線と直線のグラフの関係」「図形と動点」に関する内容が例として取り上げるよう工夫されている。(3年p. 123)	導入や「章のまとめの問題」の「活用」では、環境等に関する問題を取り上げ、生徒が学習内容と実生活との関連を意識できるように工夫されている。(3年p. 136)		
G 教育出版	学習した内容を簡潔にまとめた「学習のまとめ」が各章末に設け、その後の問題演習につながるよう配慮され、基礎基本の定着を図る配慮がされている。(3年p. 42)	1年の1章「整数の見方」では、素数と素因数分解について扱い、数の見方を広げてから、2章「正の数・負の数」につながる構成が工夫されている。	章の導入「Let's Try」や、導入課題では、作業・観察・実験・調査などの活動に取り組むことで、生徒が主体的に問いをもって学習に入れるように工夫されている。	誤答を例示したり、問において「みんなに説明しよう」と示したりし、説明を求め学習内容の意味理解が深まるような問題提示の配慮がされている。(3年p. 18, 96問4)	「章とびら」と関連づけて社会で活躍している方へのインタビュー「数学が実社会で役立っていることや数学を学ぶ意義が実感できるように工夫されている。	巻末や章末「工夫してノートを書こう」では、具体的なノート例とあわせてノートづくりのポイントが丁寧に示してあり、数学の学び方や学習習慣を身につけられるよう配慮されている。	主に知識や技能を活用する場面に「学びのプロセス」ページを設け、問題解決の過程を意識しながら、主体的・対話的で深い学びができる点において特徴がある。また、巻頭の【まなびリンクを使って学ぼう】では、デジタルコンテンツで学習効果高めたり、学習を支援したりするところに特徴がある。
	「例」や「例題」と「問」の間に類似した「たしかめ」を設け、ステップで着実に学習を進められるよう配慮されている。(全学年)	各章の冒頭に「□□を学習する前に」が設けられ、これから学習する内容に関連する既習事項を確認できるようにし、生徒がその後の学習に取り組みやすくなるように工夫されている。(3年p. 48)	「ひろがる数学」「数学の広場」では、高等学校の学校の学習内容に触れ、生徒の興味・関心に応じて発展的に学習が進められよう工夫されている。(3年p. 68, 250-251)	「章の問題」を「たしかめよう」(基礎基本の確認)「力をのばそう」(応用、公立高校入試過去問)「学んだことを活用しよう」(活用)とすることで、生徒の実態に応じて個別最適に学びを深められるよう工夫されている。(2年p. 39 - 41, 67 - 69)	巻末「社会で活躍する数学者」では、情報化社会を支える暗号やビッグデータなど、生徒が数学の有用性を実感できるように工夫されている。(1年巻末)	「章の問題」で、問ごとに生徒が記号で自己評価し、繰り返し学習ができるよう配慮されている。(3年p. 43-45)	

選定に必要資料

(種目名：数学)

記号	選定に必要資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
L 新興出版社啓林館	「学びをふりかえろう」では、前学年までに学んだ内容を復習することができるようにしており、学び直しができるように配慮されている。(1年p.248-253)	「□□の利用」の節には「ステップ」に沿って、問題を設定し、解決し、考えを深める過程が示され、主体的・対話的で深い学びとなるように工夫されている。	「学習のとびら」「利用の節」「数学ライブラリー」「学びを生かそう」などで、学習した内容に関連のある身の回りの題材などを取り上げ、生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高められるよう工夫されている。	「話し合おう」や「説明しよう」などで言語活動の場面を配置し、生徒が筋道を立てて、自分の考えを表現する力を育む場面を設ける配慮がされている。(3年p.32)	「節のとびら」「数学ライブラリー」では、まわりの題材や他教科等と関連する題材を取り上げ、数学のよさを感じられるよう工夫されている。	QRコードコンテンツ「問題解説」では、「章末問題」「学びをふりかえろう」「力をつけよう」などすべての問題の解き方を解説した動画が用意されており、生徒一人ひとりの状況に応じた学びができる点において優れている。	基礎基本の定着のため「例」「例題」「章末問題」などにはすべて動画解説が用意されている。数学の学習で身に付けたい「たのしみな考え」を様々な標識で示し、生徒がそのことを意識して課題に取り組める点に特徴がある。また、「○章のあしあと」で、分かったこと、できるようになったこと、さらに学んでみたいことをまとめる場面を設定したりして、生徒が自らの学習を客観的にふり返し、学びに向かう力を育成できる点において特徴がある。
	2、3年の関数領域では、既習の関数をふり返し、比較することによって新しく学ぶ関数の特徴がとらえやすくなるよう工夫されている。(2年p.60-61)	「学習のとびら」の中には、QRコンテンツや言語活動のコーナー「説明しよう」「話し合おう」を配置し、主体的・対話的で深い学びが実現できる点において優れている。	「学びをいかそう」では、「社会見学にいこう」など、生徒に興味・関心がわく題材が用意されており、数学を生活に生かそうとする態度を養うことができるよう配慮されている。	巻末の「力をつけよう」では、発展的な問題や過去の公立高等学校の入試問題を掲載し、生徒が様々な問題に取り組めるよう工夫されている。(2年p.199)	「まなびをいかそう」では、身の回りの課題や、数学を発展・深化させる課題を取り上げ、数学の有用性やおもしろさを感じることができるよう配慮されている。(3年p.244-270)	「ひろげよう」では、既習事項をもとに、主体的に考え、生徒自らが課題を発見し、新たな学習に円滑に取り組むことができるよう工夫されている。	
N 教研出版	「例」や「問」がスモールステップで構成され、区切りごとに定着度を確かめる問題を配置する配慮がなされている。(3年p.21,23,24)	各章の初めに「□□の学習の前に」を設け、既習事項の確認とこれからの学習への準備ができるよう構成が配慮されている。(3年p.11)	「学びの自己評価」には、数学の学びにおいて大切にしたいことが整理されており、チェックすることで自己の学習と学びあいの力の状況を確認できるよう配慮されている。	各学年の見返して、持続可能な開発目標に関する題材としてSDGsマークを添え、数学の学習を通じて社会問題について考えることを意識できるよう工夫されている。(1、2、3年見返し)	「学習の進め方」や「学びの自己評価」などで、自身の学び方を振り返ったり、理想的な学び方に対する意識を高めたりできるように工夫されている。(3年p.8,9,巻末)	時間内の学習活動を具体的に、かつ明確に示されていることと、キャラクターをガイド役として考えるタイミングやヒントが提示され学習が進みやすいよう構成されているところに特徴がある。また、デジタルコンテンツでは、個別最適な学びと協働的な学びのそれぞれについて、学習効果が高められるよう、多種多様なコンテンツが利用できることに特徴がある。	
	基本的な計算を習得できるように「問」「練習問題」「確認問題」「章の問題」「チャレンジ問題」に分け、十分な量の問題が収録されている。また補充問題として、デジタルコンテンツが設けられているところが工夫されている。	導入段階から学習内容の活用段階まで「Q」「Try」を中心として生徒が数学的な見方・考え方を働かせて課題に取り組めるよう問題解決型の学習を取りあげているところが配慮されている。	生徒キャラクターの対話を通して、基礎的な内容を学びながら自然に数学的な見方や考え方を働かせるように配慮されている。(3年p.18)	2年「2元1次方程式」など全国学力・学習状況調査で課題があると報告された内容について、3ページ使用して、丁寧に意味を説明し、問題解決できるように配慮されている。(1年p.122-124/2年p.44-47)	巻末の「数学旅行」では、実生活、他教科、歴史等を取り上げ、数学の有用性や楽しさを感じることができるよう工夫されている。(3年p.253-264)	全国学力・学習状況調査等で課題となっている「説明すること」に対応するための問題を取り上げ、数学的に説明する力がつくように工夫されている。(2年p.47)	
O 日本教出版	タイトルのついた〈例〉をきめ細かなステップで展開しているので、基礎的・基本的な内容が理解しやすく、復習しやすくなるように配慮している。	各章の直前に「次の章を学ぶ前に」という復習問題ページが設けてあり、既習事項の確認と次の学習への準備ができるよう配慮されている。	各章のはじめには、実生活の場面を表す写真やイラスト、またシンプルな問いかけが掲載されており、生徒に疑問を抱かせ、どのように疑問を解決するか興味を引くような配慮がなされている。	全国学力調査等で正答率の低かった問題について、学び直しをする場面を設定したり、ICTを活用してアニメーションやシミュレーションから理解することを助ける配慮がされている。(1年p.192,278/3年p.248)	巻末の「数学マイトライ」では伝統文化、環境教育、国際理解教育等、他教科と関連付けた題材を取り上げ、道徳性を養う視点から他者の多様な考えを尊重し、話し合いを通してより良い考えを求めることの大切さに気づかせるよう配慮されている。	QRコンテンツにはアニメーションやシミュレーション、練習問題など「個別最適な学び」と「協働的な学び」が実現できるよう工夫されている。(全学年)	巻末付録の〈対話シート〉は、切り離してノートに貼り付けて残すことができる。自分の考えを整理し、互いに伝え合う協働的な学びを通して考える力や説明する力を高めることができる点において特徴がある。また、数学の学習で身に着けた「大切な見方・考え方」を様々な標識で示し、生徒が例や問の意図を明確にして課題に取り組める点において特徴がある。
	見開き2ページを1つの小節とすることを基本とし、生徒が見通しをもって学習できるという点において優れている。(3年p.14-15)	「学び合おう」では、日常生活や社会の事象、数学の事象から問題を見出し、解決する過程が丁寧に示され、主体的・対話的な学習が展開できるよう工夫されている。(3年p.36-37)	2年6章「場合の数と確率」では、教科書QRコンテンツから、デジタルで具体物を動かすという体験を伴う学習に取り組むことができ、学習への興味関心を高めることができるよう工夫されている。(2年p.168-170)	各小節に〈問・説明できるかな〉、章末には〈説明できるかな?〉が設けられ、数学的な表現を用いて説明する力を養う学習ができるように工夫されている。(3年p.88,100)	「身近なことから」では、日常の事象を数学化し、数学的活動を通して数学のよさを実感できるように配慮されている。(3年p.155,174)	巻末には段階を追った復習問題や高校入試で頻出される複合問題(「活用問題」「ステップアップ」)が設けられ生徒一人一人の学習状況に応じて取り組むことができるよう工夫されている。(3年p.234-261)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：理科)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	観察・実験や各章の導入などに二次元コードが多くなっていて、生徒が授業前に実験の操作を予習したり、家庭学習で実験結果を確認できたりと主体的に学習することができる点で優れている。	各単元に1つ程度「じっくり探究」の観察・実験があり、科学的な探究の過程を見通しをもって取り組み、主体的で対話的な学びができ、生徒の科学的なものの方・考え方を高めることができる点で優れている。	「歴史にアクセス」では、漫画形式で科学の歴史を生徒が学ぶことができ、生徒の科学的な興味・関心を高める工夫がされている。(3年p.101)	1年「ジオパークへ行こう」では知夫赤壁、堆積岩では浜田市のれき岩、2年「金属利用の歴史」に雲南市のたたら製鉄が掲載があり、地域と学習内容を結び付けることができ、生徒の興味・関心を高める点で優れている。(1年p.222,248/2年p.61)	「まちなか科学」では、身のまわりで活用されている科学現象が取り上げられていて、生徒が興味・関心をもって学習できるように工夫されている。(1年p.143/2年p.279/3年p.46)	「なるほどね!」では、発展的な内容を取り扱い、生徒の興味・関心を高めることができる。	観察・実験において二次元コードが多くなっており、生徒が実験操作を予習や家庭学習で視覚的に確認をすることができ、主体的に学ぶことができるという特徴がある。また、各単元に探究して行う観察・実験があり、主体的・対話的で深い学びを生徒が行うことができるという特徴がある。
	各章の始めは「レッツスタート」という身近な疑問から考えていく課題で始まり、最後に「学びをいかして考えよう」で学習内容を活用する課題が設定されているため、生徒が目的意識をもって学習できる工夫がされている。	「Before & After」が各単元と各章の始めにあり、生徒の学習前と学習後での変容が自分でわかることができる。	「スタート動画」が各単元や各章の始めにあり、生徒が身近な題材から学習内容に取り組むことができ、主体的に学べるように工夫されている。	各単元の最後に「確かめ問題」や「活用問題」があり、学習内容の定着やどう活用するかなど、思考力・判断力・表現力等を高める工夫がされている。	「社会につながる科学」や「お仕事図鑑」では学習事項が社会の様々な職業で役立っている内容や、働いている人のインタビュー動画があり、キャリア教育と関連付けている点で優れている。(1年p.26/2年p.221/3年p.153)	「私たちのSDGs」では学習内容を通してSDGsを意識できるようになっていて、実生活に関連付けている。	
B 大日本図書	各単元の最初に小学校やこれまで学習してきた内容「これまでに学習したこと」やその単元で学習する内容「これから学習すること」が図や写真を用いてあり、生徒が見通しをもって学習に取り組める点で優れている。	観察・実験では「目的」だけでなく「着目点」があり、生徒の具体的な活動や調べることがわかりやすくなるように配慮されている。	「Science press」では、学習内容に関連した実生活での科学の内容があり、生徒の興味・関心を高めることができるように工夫されている。	1年「ジオパークを見学してみよう」では隠岐、火山岩と深成岩のつくりでは日御碕の流紋岩が掲載されており、生徒が地域と学習内容を結び付け、興味・関心を高めることができる。(1年p.280,215)	「くらしの中の理科」では、日常生活で活用されている学習内容を紹介し、生徒に興味・関心を抱かせる工夫がされている。(1年p.159/2年p.206/3年p.46)	基本操作のところ二次元コードがあり、操作動画を生徒が確認しながら活動できるように工夫されている。(1年p.78,79/2年p.20)	観察・実験や科学現象に関する写真や図が多く、生徒への視覚的支援があり、基礎的・基本的な学力が身につくという特徴がある。また、各単元に探究活動があり、生徒の興味・関心を高めるとともに、主体的・対話的で深い学びを行うことができるという特徴がある。
	見やすい図や写真が多く活用されており、視覚的に観察・実験や科学現象を生徒が理解しやすいように配慮されている。	観察・実験の内容を見開き右側に掲載されて、結果の例を次ページに掲載されていて、生徒が教科書を見て観察・実験を行う時に取り組みやすくなっている。	「探究活動」が各単元の最後に設定されており、生徒がその単元での学習内容を活用して課題を設定したり、探究できる点で優れている。	単元の最後に「単元末問題」や「読解力問題」があり、生徒が学習内容を定着させたり、家庭学習で活用したりできるように配慮されている。	「professional」では、学習内容にかかわる職業などが紹介してあり、キャリア教育と学習内容を結びつけることができる。(1年p.63/3年p.242)	「やってみよう」では、学習内容に関連した課題があり、生徒の興味・関心を高める配慮がされている。	
E 学校図書	観察・実験がすべて「探究」になっていて、「気づき」、「課題」、「仮説」、「計画」、「方法」、「結果」、「考察」と一連の流れが示されており、生徒が見通しをもって学習できる点で優れている。	単元の始めに「Can-Do List」があり、単元で学習する内容や達成すべき内容がわかるように配慮されている。	「理路整然」では、各分野での探究を深める内容が記述されており、生徒が興味関心を高められるような工夫がされている。	1年地層では、出雲市で堆積した写真や2年気象に関わる恵み・災害では、江津市の風力発電の写真が掲載されていて、地域との結びつきが配慮されている。(1年p.170/2年p.234)	各単元の始めには関連する内容のSDGsマークが書いてあり、学習内容とSDGsを関連付けて生徒が学んでいく上で優れている。	教科書の各ページに補充資料のページが記載されていて、教科書をスムーズに読み進めることができる。	「探究」をテーマにした構成となっていて、探究の過程を生徒自身がたどりながら、主体的に学習することができるという特徴がある。また、SDGsとの関連を各単元で重視して、生徒が実生活やこれからの社会について意識しながら、学びを深めることができるという特徴がある。
	「ミライ教科書」が教科書の内容とリンクしており、生徒の興味や疑問に対応できるように工夫されている。	「この時間の課題」と「まとめ」が設定されており、生徒がその時間に何を探究していくかが明らかとなり、見通しをもって主体的に学習課題に取り組めるようになっている。	「発展」の部分に高校等のレベルがあり、発展的な学習をするにあたって効果的な指導ができる。	実験結果の写真や図が鮮やかでリアルなものが多く、生徒が視覚的に科学現象を理解したり、好奇心を高めたりできるように配慮されている。	巻末資料では、身近な化学の内容や実生活で活用されている科学の内容があり、生活と科学の関連性に気づけるように工夫されている。	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)	
G 教育出版	「探究の進め方」が教科書の始めに折り込んであり、生徒が探究を主体的に行う上で、何をすべきかやどのような順番で行うかについてわかりやすいように工夫されている。	各章の始めに「学習前の私」、各章の終わりに「学習後の私」という課題が設定されており、学習内容が定着したか、生徒が学習の前後での変容や振り返りができるようになっている。	コラム「ハローサイエンス」では、科学と歴史の関係や高校レベルの内容等に自分でふれることができるように工夫されている。	各学年の巻末の「理科で使う算数、数学」の部分では、計算問題などで必要になる数学的知識に配慮されている。	コラム「広がる科学の世界」では実生活で活用されている身近な科学に生徒が気づき、学習内容と結び付けられるように工夫されている。	本文の文字が大きく、重要語句がオレンジ色で太字になっていて、生徒への視覚的支援が工夫がされている。	巻頭の「探究の進め方」をベースにして教科書が構成されていて、生徒が科学的に探究するために必要な力を身に付けることができるという特徴がある。また、文字の大きさや行間の配慮や重要語句をオレンジ色で示したり、振り仮名をつけたりと生徒が読みやすいように視覚的支援がなされている点に特徴がある。
	「活用しよう」や「話し合おう」など充実しており、生徒が主体的・対話的で深い学びをすることができるという工夫がされている。	「課題」とそれに対する「結論」を明らかに提示してあり、生徒が探究の過程を意識して学習できるようにになっている点で優れている。	各ページや巻末でのQRコードの動画で実験操作を確認でき、生徒が主体的に学習ができるので興味・関心を高めることができる。	「基本問題」と「活用問題」が充実しており、「学年末総合問題」もあり、生徒が問題演習できる点で優れている。	「発展」の内容では高校等のレベルにふれられ、生徒の興味・関心を高めることができる。	生徒が実験結果などを教科書に書き込んだり、参考にして実験したりできる点について工夫されている。	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：理科)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
L 新興 出版 社 啓 林 館	「探Qシート」が巻末にあり、探究の過程に沿って生徒が見通しをもって学習でき、主体的・対話的で深い学びを行うことができる点で優れている。	単元の始めに「学ぶ前にトライ!」と、単元の終わりに「学んだあとにトライ!」があり、生徒が主体的に学習の振り返りを行うことができるよう工夫されている。	「お料理ラボ」や「深めるラボ」など、学習内容と関連したコラムが多くあり、生徒の興味・関心を高めることができる。	各学年の巻末の「サイエンス資料」では学習内容の発展的な内容や、計算力が必要な課題について生徒が主体的に取り組めることができる点で優れている。	「Action」では身のまわりにある科学現象と学習内容を結びつける課題が設定されており、生徒が実生活と関連付けて考えることができるよう工夫されている。	各章の始めの「つながる学び」で、既習事項の確認を二次元コードを利用して問題形式で行うことができるよう工夫されている。	「探究」をテーマにして構成されていて、「探Qシート」を活用したり、様々な種類のコラムを取り入れることで、生徒の興味・関心を高め、主体的・対話的で深い学びを行うことができるという特徴がある。また、巻末の「サイエンス資料」が充実しており、数学など他教科とのつながりを生徒が意識して取り組むことができるという特徴がある。
	○教科書の本文の内容だけでなく、コラムや実生活に関連した内容のコナーが充実しており、生徒が探究学習をしていくときに様々な考え方ができるように工夫されている。	各単元の最後の「みんなで探Qクラブ」では、学習内容を活用して課題を考えられるようにしてあり、生徒が科学的なものの見方・考え方を身に付けることができる点で優れている。	「探Qのたね」では、身のまわりの生活での疑問や不思議なことを取り上げ、生徒が考えるきっかけになり、好奇心をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。	1年「深めるラボ」では、「日本瓦と日本列島の大地の多様性」において大田市の石州瓦が取り上げられ、地域との結びつきを生徒が実感できるようになっている。(1年p.72)	「お仕事ラボ」では、学習内容を活用した職業の紹介があり、キャリア教育につながるよう配慮されている。	「学年末総合問題」や「力だめし」で、生徒が学習した内容の定着や活用をすることができるよう工夫されている。	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：音楽・一般)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
G 教育出版	「Active!」では、二次元コードにより、紙面と同じワークシートを使って、個の考えをもとに、友達と交流したり、話し合ったりしながら、主体的・対話的な学びにつながるよう工夫されている。(2・3年上p.23)	「学習Map」では、領域・分野ごとのまとまりで、題材や教材が示され、見通しを持って学習をすることができるよう工夫されている。(全学年p.8-9)	巻頭に作曲家や演奏者の思いやエピソードが紹介され、音楽家の思いに触れることで、音楽的な見方、考え方を働かせた学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(全学年p.2-4)	巻末には、全校合唱として「故郷」が学年に応じた編成(同声2部→混声3部→混声4部)で掲載され、全校で取り組むことができるよう工夫されている。(全学年p.84-85)	「私たちの暮らしと音楽～音楽著作権について～」では、具体的な著作物が示され、SNSに多く関わっていく生徒たちが法に触れることなく著作権を有する著作物と関わっていくよう工夫されている。(2・3年上p.64-65)	「指揮をしてみよう」では、指揮の仕方を紙面と解説動画で示し、個別最適かつ着実に技能を習得できるよう配慮されている。(2・3年下p.28-29)	「まなびリンク」で示される内容が多様で、音とじっくり向き合う工夫や情景などの映像があることで、イメージをふくらませながら学習することができるよう工夫されている。また、巻末には、どの学年にも折込を使った大きな紙面があり、2・3年上では楽器が紹介され、「まなびリンク」とあわせて学習することで、生徒の興味・関心や理解を深められるという点に特徴がある。
	「比べてみよう」では、同じ題材に複数の教材を示して比較することで、学びを深めることができるよう配慮されている。(1年p.14-16)	我が国とアジア地域の声によるさまざまな表現の鑑賞では、複数の声と比較しながら、共通点や相違点について感じ取り、ケチャなどの表現活動につながることで、学習を深めることができるよう工夫されている。(1年p.58-61)	「日本の歌みんなの歌」では、まなびリンクの活用により、歌詞の情景を表す多くの鮮やかな風景の写真や動画を見ることで、生徒がイメージしながら感動をもって表現できるように配慮されている。(1年p.18-24)	「歌のアルバム」には、変声期への対応を含んだ発達段階に応じた音域の合唱曲が多く掲載され、生徒が歌いやすいパートを選択し、声を合わせながら表現の工夫を行うことができるよう配慮されている。(1年p.66-83)	「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、アウトリーチや幼稚園での音楽活動が示され、音楽と豊かに関わることへの理解が深まるよう配慮されている。(2・3年下p.66-67)	鑑賞教材には、旋律の楽譜やリズム、主題の楽器別イラストが示され、生徒が目で追いながら理解を深めていけるよう工夫されている。(2・3年上p.44-45)	
H 教育芸術社	「学びのコンパス」では、二次元コードにより、音源とワークシートが示され、音と関わりながら生徒が自分の考えをまとめ学習できるよう工夫されている。(1年p.19,45)	目次に続く「学びの地図」では、学習内容が資質・能力をもとにまとめられ、対応する教材等を示し、生徒自身が学習を通して身につける力を確認することができるよう工夫されている。(全学年p.8-9)	「心の歌」では、歌詞の情景を表す鮮やかで大きな写真が掲載され、生徒がイメージをふくらませながら、感動をもって表現できるように工夫されている。(1年p.22-25/2・3年上p.18-21など)	「郷土に伝わる民謡を調べよう」、「郷土の祭りや芸能」では、安来節や石見神楽、無形文化遺産として佐陀神能が掲載され、地域の文化に親しみ大切にすることを育むよう工夫されている。(1年p.62-63/2・3年上p.68-69)	ポピュラー音楽について、国内外の様々なジャンルのアーティストと代表曲が多数掲載され、生涯に渡り音楽文化に親しむきっかけとなるよう工夫されている。(2・3年下p.58-63)	「指揮をしてみよう!」では、鑑賞曲や歌唱曲を聴きながら指揮をしたり、指揮に合わせて手拍子を打ったり歌ったりすることで、基礎を学びながら実感をもって音楽活動につながるよう工夫されている。(1年p.40-41)	ほとんどの教材に二次元コードを用いたデジタルコンテンツが用意されており、個別最適な学びや実感を伴った理解や技能の習得につながるよう工夫されている。各領域・分野に示されている「学びのコンパス」により、生徒が自分の考えを調整しながら、個人やグループで、主体的・対話的で深い学びができるよう構成されている点に特徴がある。
	巻末には、豊富な楽典のページがあり、基礎的・基本的な内容の定着を図れるよう配慮されている。(1年p.94-97)	学習目標、音楽を形づくっている要素、楽曲紹介文、考えたいポイントなどが表記され、学習内容が一目でわかるよう工夫されている。(1年p.24など)	創作の学習では、音の出る創作ツールなどを使い、試行錯誤したり、自分の作ったものを聴いたりといった創意工夫を繰り返しながら学習を進められる点について優れている。(1年p.20)	「心通う合唱」は、生徒の発達段階に沿ったものであり、特に1年生では混声2部合唱曲が多数掲載され、変声期に対応できるように工夫されており、少人数でも混声合唱の響きを味わうことができるよう配慮されている。(1年p.14-15,72-81)	「生活や社会の中の音楽」では、学年に応じたテーマが設定されており、音楽とSDGsとの関わりについて調べたり、楽器の形について、国際理解や道徳的心情を養うことや、環境問題への意識をもつことができるよう工夫されている。(2・3年下p.66-67)	「音楽を形づくっている要素」について、イラストや楽譜を用いて具体的に示され、要素について学んだり振り返ったりすることができるよう工夫されている。(1年p.92-93)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：音楽・器楽)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
G 教育出版	前半「演奏の仕方を身につけよう」で、基礎的な知識や技能を習得し、後半「合わせて合奏しよう」で奏法を確認したり、楽曲の特徴を感じたりすることができるよう、選曲や配列が工夫されている。	管楽器、弦楽器、打楽器のまとまりで教材を提示し、各楽器の導入では、多くの写真と解説により、それぞれの楽器の紹介や基礎的な奏法についてまとめて示してあり、学習を行うのに適した構成になっている。	デジタルコンテンツ「まなびリンク」の活用により、動画で模範演奏を試聴したり、音声で具体的に聴いたりすることで生徒の主体的な学習を引き出すよう工夫されている。(p.17)	「Let's play!」、「Let's Try!」では各楽器の特徴を生かした合奏教材が、クラシック、ポピュラー、民謡などから、生徒になじみのある曲を中心に幅広く取り上げられており、生徒の実態に合わせて選択できるよう配慮されている。(p.64-95)	「吹く楽器の仲間たち」、「弾く楽器の仲間たち」では、楽器の背景にある文化や伝統などについて調べたり、楽器の形の関連について思考したりできるよう工夫されている。(p.31,56-57)	「名曲旋律集」では、各学年で習う鑑賞教材や歌唱教材の楽曲が掲載され、関連を図った学習ができるよう工夫されている。(p.98-101)	幅広いジャンルの楽曲が多数掲載されており、さらに主要部分の教材と、選択可能なオプション部分の教材を組み合わせることで、各学校や生徒の実態に応じて選曲、対応できるように内容が構成されている点に特徴がある。
	各楽器の学習では、基礎的な技能と楽曲が関連づけて配置されており、生徒の実態に合わせて、表現を通して無理なく技能が習得できるよう配慮されている。	「表現の仕方を調べてみよう」では、楽器のカテゴリーごとに表現の仕方を音楽的な見方、考え方に着目し、共通点や相違点について考え、話し合いを通して、主体的・対話的な学びが展開できるよう工夫されている。(p.30,55)	「リコーダー運指表」、「ギター&キーボードコード表」がカラー見開きページで巻末に配置され、生徒自身が随所で確かめながら学習に取り組むことができるよう配慮されている。(p.103-106)	リコーダーの教材は、多くの曲で、アルトリコーダーでもソプラノリコーダーでも取り組めるように配慮され、演奏することを通して、様々なジャンルの曲に親しめるよう工夫されている。(p.8-21,64-80)	英語の歌詞(p.37英語)楽器の背景にある文化や伝統、流通、貿易、材質、生活様式(p.31社会)、復興空港ピアノ、奏者からの言葉(p.2,4道徳)など、各教科と音楽科に関連づけた扱いに配慮されている。(p.56-57,68-69)	小学校から継続して取り扱われる創作活動ページ「音のスケッチ」では、発達段階や能力に即して体験できる学習内容が配慮されている。	
H 教育芸術社	前半の各楽器の学習では、生徒の実態に合わせて、基礎的な技能が習得できる平易な曲が扱われており、基礎の定着を図ることができるよう、選曲や配列が工夫されている。	各楽器の導入においては、生徒の実態に合わせて基礎的な技能を習得できるように、わかりやすい写真やイラストと簡潔な説明文で示されている。	充実したデジタルコンテンツ(伴奏、ワークシート、創作ツールなど)が二次元コードにより用意されており、生徒が主体的に学習したり、理解を深めたりすることができる点について優れている。	リコーダーの教材は、多くの曲で、アルトリコーダーでもソプラノリコーダーでも取り組めるように配慮され、演奏することを通して、様々なジャンルの曲に親しめるよう工夫されている。(p.10-25)	音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるよう、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が盛り込まれている。(p.2-5,50,56,59,107)	和楽器の学習では、親しみやすさや実感をもって表現できるよう、はじめに唱歌や口三味線を歌うよう、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促す特集が盛り込まれている。(p.40,49,53)	比較的平易な楽曲が掲載されており、基礎・基本の定着を図ることができ、さらに、必要な範囲の内容が十分に、かつ無理なく取り扱えるように構成されている。また、学習内容や教材を示した「学びの地図」においては、音楽科で身につける資質・能力と音楽を形づくっている要素との関連が示されている点に特徴がある。
	「アンサンブル」、「楽器でMelody」では、様々な楽器編成に対応できるよう編曲上の工夫がなされており、身につけた力をもとに曲想にふさわしい表現を工夫することができるよう配慮されている。(p.71-99)	「学びのコンパス」では、音楽的な見方、考え方を働かせて、曲に対する自分の考えをもち、友達との意見交換を通して、主体的・対話的で深い学びができるよう工夫されている。(p.17,55,81,85)	「バンドの世界をのぞいてみよう」では、スコアやタブ譜が掲載されており、ギターやドラム等への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p.68-69)	「打楽器」では、15種類の楽器が紹介され、それぞれについて写真を用いた奏法の紹介と練習の方法がわかりやすく示されており、「打楽器のための小品」等の打楽器アンサンブルで、それらを活用できる点において優れている。(p.63-67,90)	和楽器を用いた平易なアンサンブル曲や、生徒にとって親しみやすい曲が取り上げられており、我が国の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう配慮されている。(p.54-55,92-95,98-99)	歌唱教材、鑑賞教材で扱われている作品を、実際に楽器で演奏することで連携が図られるよう工夫されている。(p.24,40,72,78-79,99)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：美術)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
D 開隆堂出版	1年と2・3年の2冊に整理し、「学びの資料」として各冊子に掲載された題材に関連する資料をそれぞれの巻末に入れ、授業で活用できるように配慮されている。	資料の中に「展覧会をつくる」というページを設け、表現や鑑賞の活動とは別の美術の面白さを考えられるように配慮されている。(2・3年p.94-95)	表紙が作品の素材等を再現した質感となるようデザインされており、生徒の興味・関心を引くよう工夫されている。	「美術の用語」として、美術の専門用語を中学生に分かりやすく短文中で紹介、解説している。(1年p.41)	題材に関連して、SDGsにつながる内容をコラムの形で紹介するよう取り上げられ工夫されている。(1年p.53)	二次元コードでワークシートにアクセスすることができ、教師の経験等に関わらず授業を行うことができるようになってきている。(1年p.22)	「発想・構想」「知識・技能」「鑑賞」の学習の目標に対応した色分けで学習過程が整理され、題材に応じて適切な順番に配列されている特徴がある。表紙が作品の素材等を再現した質感となっていたり、漫画家など、生徒の興味のある人物を取り上げたりすることで興味・関心をもてるよう工夫されている特徴がある。
	多くの題材で、4ページを使用し、たくさんの参考作品や制作過程を示すことで具体的なイメージをもって学習に臨むことができるように工夫されている。	資料の中に「量感の表現」として、彫刻の造形的な視点となる量感を取り上げ、生徒が視覚的に理解できるようになっている。(2・3年p.104)	アニメ監督、漫画家、絵本作家、デザイナー等、生徒が興味・関心をもつ人物や言葉、制作過程を取り上げており、工夫されている。(1年p.8-9, p.13, p.58-59/2・3年p.2-5, p.120-127)	「そっくり描き」が「描きだけ」ではない」というコメントにより、発想は自由であるという教科の特徴を表し、生徒が自分らしく表現できるようになっている。(2・3年p.17)	思考ツールなどを紹介し、自分の内面を掘り下げるものや、使う人のことを考えること、社会に役立つと思うものなど、生徒の発想を広げる手立てを紹介しており、工夫されている。(1年p.43, 49, 59/2・3年p.16)	作品の一部や実物の原寸を多数掲載しており、実物を想像しながら鑑賞できるようにしている。(2・3年p.49, 91)	
I 光村図書出版	資料を携行しやすいサイズの別冊とし、学年が上がっても既習事項を3年間振り返って確認できる点が優れている。	「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」として和紙で作られたページを設け、日本絵画の特徴を5つに整理して学習できるように工夫されている。(2・3年p.27-42)	「体感ミュージアム」として、「風神・雷神像」が見下ろすように感じる角度からの撮影、異なる作者の「風神雷神図屏風」との比較により、生徒の興味・関心を引き鑑賞活動できるように工夫されている。(1年p.36-43)	表現において「みんなの工夫」として中学生の発想・構想が作者の言葉と写真で掲載されており、少人数の学校でも参考にでき、思考の手助けになる点が優れている。(1年p.17)	デザイン・工芸のはじめのページに一日の流れとデザイン・工芸とのかかわりを視覚化し、生活との関連が理解できるように工夫されている。(2・3年p.68-69)	一題材を、参考作品の鑑賞、表現(発想・構想)、関連作品の鑑賞の順に構成し、「POINT」で造形的な視点を示すなど、学習の過程が造形表現の追求活動に応じている特徴がある。また、3年間使用のコンパクトな別冊資料で既習事項を確認できたり、日本絵画の鑑賞のポイントを整理した和紙のページを設けたりするなど、学習が深まり、既習事項と往還できる特徴がある。	
	題材によってページ数を特集的に増やし、作品の制作過程や完成作品を掲載することで生徒がイメージをもちやすくなる点が優れている。(1年p.24-27)	表現の題材において、鑑賞から発想・構想につながる構成とし、表現と鑑賞を関連付けるよう構成されている点が優れている。(1年p.24-27)	「今の自分、これからの自分」で、生徒自身の言葉を名言風に掲載し、興味をもって主体的に学習に向かえる点が優れている。(2・3年p.54-55)	「日本の伝統工芸」として石見焼の蓋つき壺が掲載されており、故郷の伝統工芸に誇りをもつことや他の日本の伝統工芸にも関心をもつことができる。(2・3年p.101)	「〇〇科とのつながり」として、他教科等との関連を示し、教科等横断的な視点をもって学習に臨むことができるようになってきている。(2・3年p.79)		りんごをもとにした様々な作品を紹介し、自由に表現できることを示し、発想の広がりを促すよう工夫されている。(1年p.14)
0 日本文教出版	3つの分冊により、1年は「美術との出会い」、2・3年上は「学びの実感と深まり」、2・3年下は「学びの探求と未来」と題し、系統的に学習できるようになっている。	「住み続けられる町づくり」は、建物やスペースのデザインにとどまらず、SDGsを意識する町のデザインを取り上げた題材となっている。(2・3年下p.46-47)	表紙と裏表紙の全体で一つの作品を掲載することで、より鮮明に作品を見ることができ、また、各学年のテーマに基づいた作品を表紙に選択し、生徒が興味をもてるようになっている。	「造形的な視点」として、造形的な見方・考え方が働き、その題材における造形的な視点が明確に意識できるように工夫されている。(1年p.19)	芸術家以外の有名人と美術とのかかわりを示すことで、美術は誰にでも生活に役立つ学びとなるようになってきている。(2・3年下p.5-7)	各題材の「鑑賞の入り口」「表現のヒント」「造形的な視点」により、題材のねらいに迫る構成となり、学習のポイントを理解して活動できる特徴がある。デジタルコンテンツが充実しており、外部リンクとの接続も容易になっている特徴がある。	
	「表現のヒント」として、発想・構想や作品制作の参考となる言葉の投げかけや二次元コードの情報などが示されている。(1年p.19)	「絵巻物の世界」では、生徒が身近に感じにくい絵巻物を、現代の漫画やアニメと関連付けることで、題材として取り扱えるようになっている。(2・3年下p.54-55)	「屏風、美のしかけ」では、屏風の作品を実際に折り曲げて机の上に置き、実際の屏風と同じような状態で鑑賞できるようにしている。(1年p.24-29)	「どこまで修復すべきか」では、美術作品を後世にいかに残すのかという問いかけをすることで、美術文化の継承の意義、未来に伝えるべき美術文化のありようについて考えられるよう工夫されている。(2・3年下p.34-35)	カリキュラム・マネジメントの視点で題材と道徳科の価値項目との関連について目標が明記されるに留まっている点について工夫が望まれる。(1年p.24)		「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：保健体育)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
A 東京書籍	一つのページの中で、学習者に分かりやすいように、本文の横に点線で区切った上で関連する資料が配置されており、効率よく学習が進められるようになっている点が優れている。(p. 14, 15)	始めの「見つける」では思考を伴う題材が設定されており、授業に向かう意欲が高まるように工夫されている。また、その際の関連資料もイラストや写真を使って、学習者が見やすいように工夫されている。	目次で2つのキャラクターが紹介され、各時間を進めていくうえで、このキャラクターからポイントとなる問いや、覚えておく事柄が出ることで、関心を高めるよう工夫してある。	章末資料では、性の多様性、がん、感染症、ネット依存等について、資料と、デジタル教材を組み合わせて、学びを深められるように工夫されている。	各章扉絵にはその章で学ぶことに加えて、学習内容に関連した保健体育の職業をコメントやQRコードとともに掲示しており、実生活と関連付けて考えられるように工夫されている。	各章においてデジタルコンテンツが豊富で、学習内容がより深まっていくように工夫されている。また関連する項目にマークがあり、見やすいように工夫されている。	「見つける」で課題をつかみ、「課題の解決」で考えを活用し、「広げる」で学習したことを自身のこととして捉えたり、さらに調べたりするという流れが分かりやすくなっている。また、デジタルコンテンツが豊富で、各学習ごとに関連する動画が見やすく、考えをより深めやすくなっている点に特徴がある。
	口絵でSDGsの17のゴールと保健体育の授業の関連について触れ、中でも感染症とスポーツについて関係性を写真を用いて分かりやすく伝えるように工夫されている。(口絵1)	見出しの下に、問いと関連する資料が提示してあり、授業を進めていきながら、課題について考えを深めていくことができるように工夫されている。	導入での見つけるの活動では、データを読み取り活動や思い込みを揺さぶるような活動を通して健康課題を見られることができるよう工夫されている。(p. 28, 96)	ユニバーサルデザインフォントで誰もが使用しやすいように配慮されている。また、分かりやすいマークを使用あり、それについても教科書の使い方でも一目分かるように工夫されている。(p. 6, 7)	各章の「学習のまとめ」では学習した内容を日常生活に生かしたり、学習内容からSDGsの目標を達成するための手立てを考えたりするように促し、実生活に生かせるように工夫してある。	巻末スキルブックとして健康や安全に関連する20のスキルがまとめられている。また、多くがデジタルコンテンツとしても取り扱われており、知識・技能が高められる点で優れている。(p. 177-194)	
B 大日本図書	本文は左側のページに記載され、右側のページが関連資料となっており、視線移動がしやすい。また、各項目に関連資料の数字が書き添えあり、学習が進めやすい点が優れている。(p. 16, 17)	タイトル右に「学習のねらい」として、その時間の見通しを持ち、学習に向かう意欲が高められるように工夫してある。	「リンク」では、関連する章末資料や他教科との関連が示されており、学びを広げる工夫がされている。(p. 18)	トピックスでは、性についての考え方や、ストレス、がんについてなど、自身に関係することとして学習内容を捉え、考えを深められるように工夫されている。	「活用して深めよう」では、学習した内容から、自分自身や自分の周囲ができることを実生活に結び付けて考えることができるように配慮されている。	中学校保健体育WEBに、まとめの問題や、外部リンク、ワークシートなどがあり、学習内容と併せて使っていくことで、学びがより深まっていくように工夫されている。	右側が本文で、左側が資料というページ構成で、学習の中心となる活動については、「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」と示してある。まとめとして、「活用して深めよう」で考えを深められる。また、「リンク」で関連した内容の場所や他教科が示され、系統的学びができることに特徴がある。
	各単元で右側のページ最上部に、資料を元にして「話し合ってみよう、やってみよう」という欄が設けられており、生徒の思考力・判断力・表現力を引き出すよう工夫されている。	見出しの横に関連する資料の番号が書いてあり、資料を活用しながら、学習を進めることができるように工夫してある。	タイトルの次に「つかもよう」として今ある知識を挙げさせることで、生徒が自身の生活と関連付けて単元について考え、興味・関心を高めるよう工夫されている。	ユニバーサルデザインフォントで誰もが使用しやすいように配慮されている。また、マークを有効に使って、学びが深まっていくように配慮されている。	一日の中の理想的な食事や、スポーツの試合に関連して摂取するとよいものの例など、試合前に避けたいものと一緒に写真やイラスト付きで分かりやすく工夫されている。(口絵11, 12)	心や体の「個人差」があることや性別にかかわらず個性を尊重することなど多様性の尊重に配慮されている。(p. 30, 38, 128)	
K 大修館書店	「章のとびら」では、小中高の系統性やキャラクターのコメント、学習内容と関連する写真などで学習内容がつかみやすくなるようされている点が優れている。(p. 4, 5)	「課題をつかむ」では、自分の意見を出す課題やグループで話し合う課題が提示され、学習課題に気づき、主体的に学習できるように工夫されている。	単元ごとに「保体クイズにトライ」がQRコードで準備されており、主体的に学習に取り組むための工夫がなされている。	特集資料では、性についての多様な見方やスマホについて、ネット依存チェックなど、自身に関わることとして、考えが深められるように工夫されている。	ストレスへの対処の実習「リラクゼーションの方法」として、イラストや動画で分かりやすく実践への意欲を高めるよう工夫されている。(p. 56-57)	デジタル教材として準備された単元に関しては、動画を視聴することで学習内容の理解がより深まっていくように工夫されている。	「課題をつかむ」と「きょうの学習」で課題意識をもたせ、本文や資料を通して内容の理解を深め、「学習のまとめ」で日常生活につなげて考えるという構成で、学習への見通しが持ちやすくなっている。また、特集資料でより学びが深められるところに特徴がある。
	「この教科書の使い方」で章の流れから授業の流れ「つかむ」→「身につける・考える」→「まとめる・振り返る」、章のまとめまでが見開きでわかるよう工夫されている。(口絵9)	各章の最後には、まとめとして「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の問題があり、各観点での振り返りができるように工夫されている。	「コラム」では、最近の話題や興味関心を引く話題が取り上げられていたり、「保健の窓」や「体育の窓」では保健と体育を関連させて考えるとよい話題が取り上げられていたり、主体的に学習できるよう工夫されている。(p. 18, 23, 41)	ユニバーサルデザインフォントで誰もが使用しやすいように配慮されている。また、教科書使用しているマークを提示してポイントが分かりやすいように工夫されている。(口絵9)	「学習のまとめ」では、学んだことを今後の自身の生活に関連付けて、今後生かしたり、生活の改善点を考えることができるように工夫されている。	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p. 236-237)	
P Gakken	本文の見出しの横に、問いが設定してあり、問いに対しての答えを探しながら学習を進めていくことで、基礎的・基本的な内容が定着できるように工夫されている。	「学習の課題」では、その時間で【わかる】ことと【考える】ことの二つが示され、下部にキーワードが提示してあること、主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。	「ウォームアップ」では、その時間学習の課題に関わる発問が設定してあり、学習者がそこから興味・関心をもって授業に入ることができるように工夫してある。	「探求しようよ！」では、性の多様性やストレスが患者と共に生きる、感染症の予防と拡大防止など、今日的な課題について学びが深められるように工夫されている。(p. 66, 102, 164)	「章のまとめ」の生活への活用では、学習してきたことを、今後の自分の生活を見据えたうえで、生かしていく内容を考えることができるように工夫されている。	QRコードを用いた章デジタルコンテンツでは、デジタルコンテンツで外部リンクが設定してあり、より広い範囲から、その時間の課題について学びとることができるようになっている。	「ウォームアップ」で課題を発見するところから始まり、「エクササイズ」で対話的で深い学びを発展していく。「学びを生かす」で、学習したことを自身の生活につなげて考え、実践力を高められるようにしてあるところに特徴がある。
	「この教科書の使い方」で、章の扉から各時間の学習における1時間の主な流れ、章のまとめが一目で分かるようにされ、見通しがもてるように配慮されている。(p. 8)	「章のまとめ」では、学んだキーワードが示されており、「振り返ろう」、「確かめよう」を問題形式で解き、「生かそう」でその先に内容が生かされるよう工夫されている。	口絵では、写真や図、デザイン、章の扉では、学習内容に関係した写真、資料、コラムで学び全体へのイメージや興味・関心が高まるよう配慮されている。	ユニバーサルデザインフォントで誰もが使用しやすいように配慮されている。また、写真等の資料がシンプルですっきりとした配置で見やすくなっている。	学びを生かすでは、身につけた知識・技能をもとに、実践的な課題の解決を考えることで学びを深めることができるよう工夫されている。(p. 29, 33)	「キーワードで見る保健体育の学習内容」ではキーワードごとに関連単元が一目で分かるように工夫されている。(p. 190, 191)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：技術)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	それぞれの編の各章・節の内容は、学習指導要領の内容を踏まえて、学習が系統的にすすめられるよう、基礎・基本から応用・発展へと段階を踏んで学習を行うのに配慮されている。(③p.1)	各編の2章の最後に「問題解決例」が示してあり、3コマ漫画を利用し、自ら問題解決に主体的に取り組むことができよう構成が優れている。(p.72-77,120-125,182-187,232-237,250-255)	技術分野のガイダンスにおいて、「技術のめがね」「最適化の窓」で社会における技術を見ることで技術の見方・考え方に気づき、働かせられるように工夫されている。(p.16-19)	「TECK Lab」は基礎的・基本的な技能がまとめられてあり、いつでも確認できるように工夫されている。(p.40-51,114-117,180-181)	「リンク」マークを用いて、教科間・学校種間の連携が高められるよう配慮されている。(p2)	「SDGsとTechnology」では、持続可能な開発目標について技術が果たしている役割を分かりやすく紹介し、持続可能な社会の構築に寄与する態度が養えるように工夫されている。(p.10-11)	「Society5.0のその先へ」では、新しい技術の融合によって目指す豊かな未来のイメージが分かりやすくまとめられてあり、技術のよりよい活用や創造によって豊かな未来をつくっていくとする態度の育成につながる工夫に特徴がある。また、「技術分野の学習を終えて」という項目を設け、生徒個人でどのような資質・能力が身に付いたかチェックできるようにしており、最後の学習を行うのに適した構成になっている点に特徴がある。
C 教育図書	学習指導要領の趣旨を踏まえ、A～D編を1章「技術を見つめよう」、2章「技術をいかそう」、(D編は2・3章)、3章「未来をつくろう」(D編は4章)となっている。(p.2-3)	2章(【D編情報の技術】は2章3章)では、問題発見→課題設定→知識・技能を活用した課題の学習を通して生徒に身に付けさせたい技術ガバナンスと技術イノベーションをまとめやすいようになっている。(p.36-60)	生徒の理解度や興味・関心に応じて、積極的に学習を進められるよう「もっと知ろう」や「先輩に聞いてみよう」のコラムが盛り込まれている。(p.33,61,93,101,104-105,149-150,163,188,215)	各編の2章(【D編情報の技術】は2章3章)の導入に、4コマ漫画があり、生徒が自ら問題発見と解決方法を理解し、取り組むところが優れている。(p.36-37,86-87,138-139,196-197,222-223)	「技ビト」・「スゴ技」のコラムやE編「夢をかなえる技術」で、学んだ技術が社会にどういかされているかを取りあげて、資質・能力を働かせてよりよい社会を創るという目標を持てるように工夫されている。(p.22,29,246-253)	持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標のマークを関連する学習内容に付けて、日本や世界で起こる諸問題を、自らに関わる課題として捉えられるようにしている。(p.3,67,107,109,133,167,169,241,243,246)	技能資料は別冊「スキルアシスト」にまとめて掲載されており、加工法の確認や実習中に作業を確認できるようになっている。作業工程や時間の設定の参考にでき、見通しをもった設計・計画ができる点に特徴がある。また、各編の3章(【D編情報の技術】は4章)の「社会の発展と技術」では、国や社会の問題を自分自身の問題として捉え、自ら考え、判断して行動できるように配慮されている点に特徴がある。
D 開隆堂出版	各内容は、「導入」→「基礎学習」→「展開」→「まとめ・評価」の順で構成され、各段階とも生徒の興味・関心・意欲を高めながら、問題解決的な学習が無理なく展開でき、系統的な学習が進められるように配慮されている。(全体)	各内容で身近で具体的な製品からしくみなどを考えるようになっており、興味を持って学習できるよう工夫されている。(p.⑤-1,8-13,16-17,26-29,106-109,158-161,212-215)	実習例は、基本となる実習から参考・応用的なものまで、いずれも生徒が関心と意欲をもって取り組めるような多様な例が扱われており、問題解決の学習ができるように工夫されている。(p.50-73,128-147,188-201,252-263,266-5,288-294)	生徒の目が地域に向くよう、地域の技術について取り上げた写真や話題などを豊富に使用している点が優れている。(p.104-105,156-157,210-211,284-285)	小学校や他教科とのつながりを各内容の扉ページにて示し、関連がある箇所にはマークを示すことで、学年・教科横断的なカリキュラムが立てやすいよう配慮されている。(p.27,107,159,213)	「技術分野の出口」では、さまざまな技術を組み合わせ合わせた統合的な実習を取り上げており、社会の問題に技術で対応するための考え方を深め、統合的な問題解決の学習を行えるよう工夫されている。(p.286-295)	各内容の適切な箇所にQRマークを記載することによって、個別最適な学びが実現できるよう工夫してある点に特徴がある。また、環境に関する内容はガイダンスをはじめ、各内容で取り扱い、学習活動や生活の中で環境や共生を大切にする実践的態度が身につくような点に特徴がある。

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：家庭科)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
A 東京書籍	教科書の使い方等のウォームアップ+6編の編成で1編ではガイダンスや「家族・家庭生活の一部」/2~4編では「衣食住の生活」/5編では「消費生活・環境」/6編では「家族・家庭生活」で構成されている。A4変形版291p+6p、QRコンテンツ(373)が取り入れられている。(p.146-147)	各ページ「目標」、「学習課題」、「生活に活かそう」または、「まとめよう」という学習の流れで構成され、1時間の授業の流れがわかりやすいように工夫されている点(89)	様々なページで「プロに聞く!」という専門家の考えや詳しい資料を提示することで生徒の興味・関心を持って取り組めるよう工夫されている。(p.63)	教科の特性上、実習や実践をする場面が多くある。「いつも確かめよう」を設け、実習や実践に必要な基礎的な技能を確認できる点が優れている。(p.64-73)	それぞれの編で扱う内容や具体的な例において身近な生活の場面を取り上げており、実生活との関連を図りやすいように工夫されている。(p.174)	全ての生徒が学習しやすいよう、右利き、左利き両方に対応があったり、男女共同参画社会など共生の視点を重視したりとダイバーシティへの配慮がされている。(p.68)	小学校での学習、高校での学習とのつながりや、実生活との関わりを意識できるように書かれているとともに、見やすい写真や図が掲載され、多くの題材が提示してあることで、生徒が意欲的に取り組みやすくなることで問題発見、課題設定を主体的に行うことにつながるという特徴がある。
	学習指導要録に示された内容A~Cを1~6編に区切り、1編ではガイダンス的な内容、A(1)を学習し、2編で内容B(1)の食の内容から衣食住の生活を取り扱っているので小学校からの学習との関連を図れるよう配慮されている。	導入のレッツスタートでは学習課題に対する問題提起や身近な生活場面での疑問を取り扱うことで主体的に学習に向かえるよう工夫がされている。(p.118)	見開きの右上の二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスできるようにしており、学習を深めるためのツールや情報が盛り込まれている。(p.45)	住生活の中で日本各地の住まいの例に島根県の築地松が掲載されており、身近な住まいの特徴を考えやすいように配慮されている。(p.175)	巻末に「学んだことを社会に生かす」を設け、家庭学習と社会との関連を図れるように工夫されている。(p.284-285)	2編からそれぞれの編の最初の見開きで「家庭分野の見方・考え方」や「家族の・家庭の基本的な機能」のどの部分と関わりがあるのか示すことでそれらを意識できるように工夫されている。(p.29)	
C 教育図書	内容はガイダンス、A「家族・家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」の順で構成されている。A4変形版 280p+14口絵+折込8p、注釈の付いているQRコンテンツ(136)が取り入れられている。(p.172,173)	「やってみよう」で身につけた知識・技能を活用し、「学びに生かそう」で課題に取り組むことで思考・判断・表現力を養えるように工夫されている(p.8-9)	どのページもイラストや写真、グラフデータなど多くの資料が提示されており、文字での理解だけでなく、視覚的にもものごとを捉えて理解できるように工夫されている。(p.42-43)	各内容ごとに、深く考えたり、体験してみたりさせる項目を設けて、体験的・実践的に学習ができるように配慮されている。(p.27)	「見つめる」では身近な日常生活の一場面を写真で提示し、自分の生活を振り返ることで生活とのつながりを感じるように工夫されている。(p.160)	食品成分表に6つの食品群を表すマークを作成して視覚的にどの食材が何群に属するのかが理解しやすいように工夫されている。(折込⑦~)	つながりをテーマに「見つめる」で身近な生活場面を想起させ、自分の生活とのつながりを意識しながら学んだ知識・技能を活用しながら「学びを生かそう」で実践的に課題解決に取り組むことで、家庭分野の資質・能力が育めるように構成されている点に特徴がある。
	ガイダンスでは、つながりをテーマに様々な資料を用いて家庭分野と日常生活のつながりや社会とのつながりを意識できるように配慮されている。(口絵3~)	「学びを生かそう」の課題レポートは課題解決の流れを色分けして示し、常に課題解決の流れを意識して取り組めるように配慮されている。(p.33)	マンガやアニメの主人公の生活を通して考えることで、同じ条件の家族について具体的に考えやすく、また興味がわくように配慮されている。(p.145,207)	住生活の導入部分の日本の特徴ある住まいが紹介された写真で、島根県の築地松が紹介されており、身近な住まいの特徴が考えやすくなっている。(p.198)	「センパイに聞こう!」や「メッセージ」では、家庭分野の学習に関係する人が仕事で大切にしていることや生徒へのアドバイスを掲載し、将来の職業や生活の参考になるように工夫されている。(p.35)	資質・能力の三つの柱に沿った「学習の振り返り」を行うことで、学んだことを「確認」「考える」「まとめる」という段階をふんで、確認しやすいように配慮されている。(p.68)	
D 開隆堂出版	内容は、ガイダンス、A「家族・家庭生活」B「衣食住の生活」C「消費生活・環境」の順で構成されている。また、二次元コードから豊富なデジタルコンテンツにアクセスできるようになっている。A4変形版312p、QRコンテンツ(約200)が取り入れられている。	1学習のスタート、2客観的な記述から学ぼう、3生活の中の課題から考えよう、4学習を振り返ろうの流れで構成されており、3生活の中の課題から考えようでは生活の具体的な出来事から調べたり、発表し合ったり、体験したりできるように工夫されている。(p.2-3)	科学的な根拠に基づいた資料やグラフなど用いてわかりやすく記述することで生徒の興味・関心を促す点が優れている。(p.100-101)	調理実習に関わる基礎基本的な知識・技能の解説を写真やイラストを用いて確認できるようにしており、実践や体験を支える配慮がされている。(p.118-123)	各内容ごとに発展として、学習した内容に関連して活用されているのかを紹介し、実生活との関連を図れるように工夫されている。(p.189)	ガイダンスで家庭分野の学習方法については、「主体的」「対話的」「深い学び」の観点でどのように学習したらよいか整理できるようにしている。(p.6-7)	科学的な資料や写真を効果的に取り入れ、生徒が学習内容をイメージしやすくしたり、たくさんの発展的なコラムを載せることで、生徒の主体的な学びを促したりしている。そのことにより、SDGsの考え方も取り入れながら、生活と学びをつなげて考えることができ、課題解決的な学習をスムーズに進められるような特徴が見られる。
	生徒同士で対話をしたり意見を交換したりできるような学習活動を多く取り入れ、生徒自らの考えを広げ深められるような配慮がされている。(p.57)	各項目の導入では、生徒の身近な話題や見開きの写真を用いながら、学習に興味・関心をもって取り組めるように配慮されている。(p.38-39)	多様性を意識した中学生キャラクターとナビゲートキャラクターが登場し、学習内容を補足し、生徒が興味・関心をもって取り組めるようになっている。(p.200)	住生活の中の気候風土に合わせた住まいの特徴が書かれた部分に、防風林が日本海からの強い風を防いでいると写真での紹介があり、身近な住まいの特徴を考えやすくなっている。(p.240)	各章末の持続可能な社会を考えるページにはSDGsのアイコンが記されており、教科の学習が社会とつながっていることを意識できるように工夫されている。(p.172)	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(11p.236-237)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：英語)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
A 東京書籍	Unit, Real Life English, Stage Activityの主要単元で、目的・場面・状況を意識して活動に取り組めるように工夫されている。(全学年)	Unitの初めには、GOALとUnit Activityの内容が示されており、見直しをもって、目的・場面・状況を意識した学習ができるよう、構成について工夫されている。(3年、p. 31, 38)	各単元の終わりに、学んだ題材や言語材料を使って表現する活動が配置されている。そのため、題材に対する興味・関心を高めながら、自ら課題を見つけて学習を進めることができる点で優れている。(1年p. 98)	自分の町を巡る休日プランやご当地グルメを提案するなど、地域の魅力を発信する活動が多く設定されている。その活動において、総合的な学習の時間などで体験したことを生かすのに適した構成になっている点で優れている。(2年p. 26)	国語、技術、社会など他教科の内容を英語で読むコーナーが各学年で取り入れられており、他教科で学んだことを生かしながら読んだり、話し合ったりすることで技能を高めるよう工夫されている。(全学年)	題材や人物を世界の国々から設定したり、「ダイバーシティメモ」を掲載したりするなど、多様性への理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 8, 1年p. 16)	各単元末の言語活動の助けとなる資料が巻末に掲載され、表現活動に活用できる写真や発表の構成例、表現活動を生徒が主体的に豊かにすることができる語句など、そのタスクにあった支援内容となっている点に特徴がある。
	347項目の動画やアニメが生徒の端末で視聴でき、内容理解に活用できるとともに、文字・語彙・文法事項においてはクイズ形式168項目で生徒の端末で活用ができることについて、ICTの活用面で優れている。(全学年)	単元を貫く問いが設定され、問いに対する考えを書いたりまとめる活動で終わる構成である。Read and Thinkでは3回視点を変えて読むことで、英語を読む力の育成を図るよう工夫されている。(2年p. 12, 22-23, 26)	小単元「Real Life English」では、目的・場面・状況が明確に示されることにより、意欲をもって学習できるように配慮されている。(2年p. 40-43)	フードロスや動物の絶滅危険種等のSDGsに関わる問題を扱うことについて、今日的な課題について考え、自分の意見を表現することができるように工夫されている。(3年p. 31-38)	2、3年次には各Unitのテーマがユニバーサルデザイン、動物保護、人権・平和など英語を通して様々な社会問題について考えられるように単元が構成されており、工夫されている。	1年では巻末に語順カードがついており、カードを使って文構造を整理し、語順を理解したり、自ら文を作り出したりする学習に役立つよう配慮されている。	
D 開隆堂出版	中学初出単語が1664語で学習負担の軽減に配慮されている。各単元Scenesと本文、新出表現はQRコードから音声で聞けるだけでなく、アニメや実写動画にもアクセスできるよう工夫されている。	PROGRAMが終わるごとにReview & RetellやAction、「英語早わかり」が設定されており、学んだ内容の活用や整理ができるよう工夫されている。(3年p. 24-27)	「Coffee Break」では、写真やその解説資料をもとに、興味・関心をもって自分の考えを表現することができるよう工夫されている。(2年p. 17)	フェアトレードや海洋ごみ問題等の話題を扱うことにより、今日的な課題について考え、自分の意見を表現することができるように工夫されている。(3年p. 72, 87)	2年次には生活に密接する話題、3年次には社会的な話題について異文化理解や共生、環境問題などを取り扱い、考えを深めたり、相手に伝えたりすることができるように単元構成が工夫されている。	学期に1回設定されているOur Projectは、グループでの発表やポスター制作など対話を通して課題解決に向かう活動が設定され、協働的な学習につながる点で優れている。(2年p. 44-45)	学期ごとの目標がOur Projectの形で提示されており、全体が目標に向けたバックワードデザインで構成されている。巻末にあるCAN-DOリストにPROGRAMごとの目標が明示され、教員と生徒が目標を共有しやすく構成されている点に特徴がある。
	単元末のActionでは本文題材に関連したテーマでの自己表現が設定されており、1単元を通して基本の習得から自分の考えなどを表現する活動に向けて無理なく力をつけられるよう工夫されている。	1年生の学習初期は、1シーンごとにbe動詞と一般動詞を混在させることを避け、スモールステップで中学校での英語に生徒が慣れることができるように構成されている点で優れている。(1年p. 22)	各単元の初めに「Scenes」で簡単なやりとりが示されており、抵抗なく、徐々に発展的に新出文法の学習に取り組めるよう構成されている点で優れている。(1年p. 38-39)	職場体験学習や修学旅行の話題が取り上げられているが、本地域では実施時期が異なる学校もあるため、題材についてイメージしづらいことが予想される。就きたい職業や旅のルールなど、一般的な視点からも考えられる工夫が望まれる。(2年p. 65-73)	各PROGRAMがSDGsのいずれの目標と関連づいているか、マークで示されており、生徒が題材との関わりを意識して学習できるように工夫されている。特に3年ではすべてのPROGRAMについて関連付けられている。(全学年)	1年の巻末にはアクションカードがついており、基本的な一般動詞の定着に役立つとともに、カードゲームやTpRアプローチによるアクティビティなどにも活用できるよう工夫されている。	
F 三省堂	中学初出単語が1627語、発信語彙996語と学習負担の軽減に配慮されている。各単元ではpartとGoal Activityによって構成され言語活動がバランスよく配置され、段階的に学習できるよう工夫されている。	各LessonにGoal Activityが設定され、本文の内容について自分の気持ちを整理して発表したり、読み取った内容をもとに自分の意見を発信したりするよう構成が工夫されている。(3年p. 11)	各パートが、聞くことや話すことから新出文法にふれるように工夫されている。これにより、徐々に発展的に新出文法の学習に取り組める点で優れている。(全学年)	気分に合わせておすすめ曲や、映画の楽しみ方など、日ごろの体験を生かして表現することができる話題が多く取り上げられている。(3年p. 22-23, p. 50-51)	1年次にはスポーツの魅力、2年次には環境問題、3年時には平和問題や公平性に関する話題など特に社会や道徳に関する内容が多く取り上げられており、生徒の学習段階に合わせた内容になるよう配慮されている。	2、3年のLesson 1は、前学年の復習レッスンとして既習の表現を織り交ぜることで、スムーズに新しい学年の学習を進められるよう工夫されている。(2年p. 7-12/3年p. 7-12)	単元末の表現活動に向けたバックワードデザインに加えて、新出表現の導入を音声と画像のみで行うことで聞くことに集中できるように工夫が見られる。また、AIによる音読のチェック機能を取り入れることにより生徒が主体的に音読に取り組むことができるよう工夫している点に特徴がある。
	Goal Activityはレッスンごとに「読むこと」または「書くこと、話すこと」のコミュニケーション活動に取り組めるようになっているため、単元のみとまりにおいて工夫されている。	各Lessonでは、扉には単元の目標とともに内容を想起させるイラスト等があり、まとめとして新出表現をもとに情報発信する活動が設けられ、自然な形で自己表現できるよう配慮が見られる。(2年p. 60-61)	各単元の終わりに、学んだ題材や言語材料を使って表現したり、文を読んで内容を理解したりする活動が配置されている。そのため、題材に対する興味・関心を高めながら、自ら課題を見つけて学習を進めることができる点で優れている。(3年p. 32-33)	アンケート調査結果を発表する活動など、生徒がICTを活用してコミュニケーションにつなげることができる内容が工夫されている。(2年p. 80-81)	3年次には快適に暮らす工夫や、自分が外国語を学ぶ理由など自分や自分たちの身の回りの生活について考えることができるように工夫されている。	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p. 236-237)	
G 教育出版	中学初出単語が約1850語、発信語彙約1040語と学習負担の軽減に配慮されている。各UnitのゴールがInputとOutputの2つの柱になっており、思考力・判断力・表現力の育成に配慮されている。	Read Aloudで音読の回数を確認できるよう工夫されている。また、Key Sentenceとそれを使ったリスニング問題により、新出の文法事項の定着を図るよう配慮されている。(3年p. 12-13)	4技能5領域習得の「コツ」を示したページ(Tips)により、学習を継続的、発展的に進めていくための工夫がされている。(1年p. 58, 98)	環境・エネルギー問題等SDGsに関わる話題を扱うことにより、今日的な課題について考え、自分の意見を表現することができるように工夫されている。(2年p. 23-30)	1年次にはピクトグラムやSDGsに関する活動、2年次には環境問題や地球温暖化、3年時には宇宙の環境問題や動物保護など社会や理科に関連する内容が各学年で学べるように工夫されている。	学年の初めに目標を書き込むページがあり、生徒が学習の目標を持ち、夢を持って学び続けることができるよう工夫されている。(全学年表紙裏)	Q&A活動では単純な1問1答ではなく2文以上で答えられるように工夫がされていたり、効果的な英語討論のための表現力をつけるために3年の最後の2レッスンをディスカッションおよびディベートにしたりして、英語での発信力育成の手だてが計画的に織り込まれている点に特徴がある。
	幕活動で定着を図るActivity plusではQ&Aが10問ずつ配置され、アワークなどを通して話すこと(やり取り)を取り入れる機会が多く盛り込むよう工夫されている。(2年p. 42)	SNSへの写真やコメントの投稿といった身近に関心の高い題材が扱われ、生徒が主体的に自分ごととして学習に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 60-61)	各学期の終わりに、学んだ言語材料を使って表現する活動が配置されている。(全学年)	職場体験学習の話題が取り上げられているが、本地域では実施時期が異なる学校もあるために、題材についてイメージしづらいことが予想される。就きたい職業など、一般的な視点からも考えられる工夫が望まれる。(2年p. 51-58)	3年次のLesson4, 5では「どんな自分になりたいか」「自分の夢と夢が叶ったら何がしたいか」について考え、自分自身を見つめる題材となるように工夫されている。	1年生ではSpring Board、2・3年生ではReview Lessonが設定され、小中連携、学年間につながりを意識した構成になっている。(1年p. 6-17/2年p. 6-10)	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：英語)

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6)その他(特筆すべき事項)
I 光村 図書 出版	<p>中学初出単語が1659語、発信語彙901語と学習負担の軽減となっている。各単元の目的・場面・状況が明確であり、単元の目標に応じた言語活動が取り入れられて点が工夫されている。</p>	<p>各ユニットとも、コミュニケーションを行う目的・場面・状況の設定から、ユニット終末の活動まで、言語活動に一貫性を持たせている点に工夫がみられる。(2年p. 59-67)</p>	<p>単元の最初のページに、題材に関わる様々な写真が掲載されており、興味をもって学習に取り組めるように工夫されている。(1年p. 46-47, 72-73)</p>	<p>自分の町の観光プランを提案するなど、地域の魅力を発信する活動が多く設定されている。その活動において、総合的な学習の時間などで体験したことを生かすのに適した構成になっている点で優れている。(1年p. 80-81/2年p. 46-47)</p>	<p>世界地理に関する内容を学習したり、美術作品についての英文を聞き取ったり、洋楽について学習したりするなど幅広い分野について学べるように工夫されている。(全学年)</p>	<p>「思考の地図」では考えをまとめたり、広げたりするために役立つ方法が複数示してあり、生徒が思考する際に役立つ内容となっている。(3年巻末④⑤)</p>	<p>教科書全体を通じて、登場する中学生たちの学校生活のドラマを軸に組み立てられており、また、イラストが効果的に組み込まれていることで、生徒が興味をもって読み進むことができるよう工夫されている点の特徴である。</p>
	<p>Let's Talkや学び方ガイドは1問1答から2文以上で答えるといった活動を継続的にを行い、即興的なやり取りの力を高める構成となっている点に工夫がみられる。</p>	<p>各学年の巻末にはStory Retellingのページがあり、教科書内ストーリーを自分の言葉で発信できるよう工夫されている。(3年p. 7, 114-120)</p>	<p>各単元の終わりに、学んだ題材や言語材料を使って表現したり、文を読んで内容を理解したりする活動が配置されている。そのため、題材に対する興味・関心を高めながら、自ら課題を見つけて学習を進めることができる点で優れている。(1年p. 80-81)</p>	<p>ロボットとの共生や持続可能な社会に関わる問題を扱うことによって、今日的な課題について考え、自分の意見を表現することができるように工夫されている。(3年p. 56-59, 82-83)</p>	<p>You Can Do It!では地域の魅力を発信したり、郷土に関する読み物を読んだりして、国や郷土を大切にすることを育むために工夫されている。(全学年)</p>	<p>「英語の学び方ガイド」では、生徒が学習を進める上で抱きがちな悩みと、それらに対するアドバイスがQ&Aの形で掲載されていることで生徒のつまずきを防止するよう配慮されている。(1年p. 145-153)</p>	
L 新興 出版 社 啓 林 館	<p>中学初出単語が約1700語、発信語彙約900語と学習負担の軽減に配慮されている。各単元にはInputとOutputの技能各1つ目標が提示され、単元末には振り返りや自己評価をする機会が盛り込まれている。</p>	<p>各パートはListen、Speak、Writeの流れで構成されており、同じ流れで活動することで新出の文法や表現に慣れしなみやすくなるよう工夫されている。(2年p. 7)</p>	<p>各単元が「とびら」「part1～3」「4技能とThink」のページで構成されており、シンプルなレイアウトと明確な単元目標で意欲が喚起されるように工夫されている。(全学年)</p>	<p>地域の祭りや食べ物を紹介する活動などが配置されており、地元の行事や食文化など総合的な学習などで学んだことを生かすことができるよう工夫されている。(2年p. 28, 118)</p>	<p>各学年異文化理解、SDGsの目標に関連した課題について考える題材を多く取り扱っており、生徒が課題をもとに自分たちならどうするか、何ができるかを考えることができるように工夫されている。(全学年)</p>	<p>「英語の学び方」では、英和辞典の使いかたや英単語の発音の仕方など、5領域をバランスよく習得するための情報が掲載されている点が工夫されている。(1年p. 29, 100)</p>	<p>be動詞と一般動詞を初出では同時に扱わないように、パートごとに扱うターゲットセンテンスを精選し、スモールステップで学習を進め、Unit終末でターゲットとなる重要表現について確認できるように工夫されている点の特徴である。</p>
	<p>Activity plusでは学んだことを生かした即興的なやり取りについて工夫されている。1年導入の単元では漫画形式の短い対話の導入で読むことの負担軽減に配慮されている。</p>	<p>part1-3のすべてにEnjoy Chattingが記されており、扱われている題材に関連する英文が示されているため、即興で話す活動ができるだけでなく、題材について考えを深められるよう工夫されている。(1年p. 22)</p>	<p>即興で話す力を継続的に養うことができるように、単元の各パートに内容に関する問いが提示されたり、Think&Speakなどに話したいことをメモする活動が配置されたりしている。(3年p. 61)</p>	<p>気候変動など、今日的な課題について考え、自分の意見を表現することができるように工夫されている。(3年p. 63-72)</p>	<p>学校行事(合唱コンクール、運動会など)と関連づいているUnitも複数あり、生徒が身近な話題をどのように英語で伝えるか、考えるかについて効果的な指導ができるよう工夫されている。(1年Unit7/2年Unit1, 6)</p>	<p>巻末付録には、これまでに学習した基本文型や符号の使いかた、数の読み方などが見やすくまとめられており、復習に役立つ内容となっている。(3年p. 111-119)</p>	

選定に必要資料 (種目名: 道徳)							
記号	選定に必要資料の観点						
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他 (特筆すべき事項)	
A 東京書籍	巻頭ページに1年間の流れや授業の流れを示し、生徒が学習活動をイメージしやすいよう配慮されている。	全学年で「いじめのない世界へ」についてユニットが組まれている。「いのちを考えると」では防災の視点を取り入れた教材が扱われ、重点的に学習できる点が優れている。(1年p.22-33/2年p.24-35/3年p.46-49)(1年p.73-76,134-139/2年p.83-86/3年p.73-76)	NHKforスクールとのコラボ動画やリンクがあり、多様な資料からデータや資料を読み取るような教材が用意されている点が優れている。(1年p.120-126/2年p.144-147/3年p.46-49)	「プラス1」では、教材を通して考えたことをさらに話し合い、広げたり深めたりできるような工夫がなされている。(2年p.86松崎の碑)	現在社会で活躍している人物を取り上げ、様々な生き方やキャリアについて考えることができるよう配慮されている。	巻末に心情円を付属しており、生徒が思いを可視化することができる。また生徒同士で心情円を比較することで、多様な考え方があることに気づくことができるよう配慮されている。	教材末に「ぐっと深める」が設定され、中心発問や自己を見つめる発問で考えたことについて、様々な見方からの意見をもとに多面的・多角的に考えを深めることができるようになっている。また各教材末の「つぶやき」や巻末の「自分の学びを振り返ろう」が用意され、生徒の考えが記録できるような特徴がある。
	「助詞一覧表」では、各助詞の例文が掲載され、言葉の役割の違いが分かりやすくなるように工夫されている。(2年p.240)	「あなたらはどうする・プラス1」や「付録」のSDGsの教材では、広く社会や世界に目を向けることができる点とともに、実態に応じて教材を差し替えることができるように工夫されている。	教材で使われている写真やイラストが大きく掲載されており、生徒が学習を進める中で考えを深めやすくなるよう配慮がされている。	答えのない問いを話し合う教材では「自分だったらどうするか」と考えてみることで生徒が自分事として考えることができる点が優れている。(1年p.73-76,134-139/2年p.83-86/3年p.73-76)	「私のふつとと、あなたのふつと」ではグラフから読み取った課題について考えるなど、多様な形式での生徒の思考を深めていこうとする点が優れている。(1年p.115-119)	二次元コードを読み取ることで、朗読やワークシート等一覧をすぐに見ることができる点で優れている。	
G 教育出版	内容項目を充足する30時間分の教材と、自作教材等と差替え可能な補充教材5時間分が組み立てられており、学校独自のカリキュラムを作成することができるよう工夫されている。	教材名の下に導入の問いが示され、教材を通してどのようなことを考えていくのか、生徒が見通しをもてるよう配慮されている。	1年生「ルールとマナー」では、生徒がルールやマナーに対する自分の考えを教材の提示されている中から選び、お互いに話し合うことで互いの思いを知ることができるように配慮されている。(1年p.64-69)	「いじめをなくそう」「いのちをかがやかせよう」では、複数の教材やコラムをユニット化し、多様な教材から考えが深まるよう工夫されている。	「若者議会」は、社会科や特別活動と関連付けて学習を深めることができるよう配慮されている。(3年p.118-121)	教材名の下に二次元コードにアクセスすると、「教材解説」として教材の要約が示され、内容を理解することができるよう配慮されている。	「よりよく生きる」ことについて考えたことを記録できるページが用意されており、3年間を通して生徒自身が成長を実感できるようになっていたりと、各教材の導入となる問いが示されている。また「学びの道しるべ」に3つの問いがあり、考えを広げたり深めたりできるような特徴がある。
	「ちがいにについて考えよう」ではイラストや表を用いることで段階を踏んで生徒が思考を高めていけるように配慮されている。(1年p.96-101)	「ひろは」で考えを広げたり深めたりできるよう配慮されている。	同世代や若い世代の考えが教材に取り入れられ、関心を持って取り組めるような配慮がされている。	島根県出身の井手上漢さんのコラムや教材が取り上げられており、島根の文化・地域につなげて考えることができるように構成されている点が優れている。(1年p.156-157)	全学年「内容項目別教材一覧表」では、実技教科や総合的な学習の時間との関係性が強い教材が多く配置されており他教科とのつながりについて配慮されている。	男女の関わり方が人としての視点につながるように教材が工夫されている。	
I 光村図書出版	3年34時間分の教材が、テーマに沿ってユニットとして組まれている。異なるいくつかの内容項目で構成され、多面的・多角的に考えられるよう配慮されている。	複数の教材をまとめたユニットが構成されており、全学年ともユニットが同じ構成になっている。学校生活に寄り添ったユニットテーマが設定され、道徳教育が学校教育活動全体を通じて行われるよう配慮されている。	島根県出身のモデルの井手上漢さんのコメントを掲載し、身近な有名人の生き方に触れ、多様な生き方について深く考えられるよう工夫されている。(3年p.71)	ユニット「いじめを許さない心について考える」が設けられ、年度初めにいじめ問題について考えることができるように工夫されている。また、2年生ではいじめといじりの違いについて学習ができるように工夫されている。(1年p.34-46/2年p.36-45/3年p.36-50)	各教材の「つなげよう」では、関連図書の教材等が掲載され、他教科との関連を意識したり、日常生活に学びが広がったりするよう配慮されている。	「考えよう」、「チャレンジ」では、空欄を埋める等、生徒が思考をまとめながら学習を進めていけるように工夫されている。	巻末に「学びの記録」が設けられ、1年間の学びを振り返ったり、なりたいた自分の姿をイメージできたりするようになっている。また、各教材の「考えよう」では、めあてと2つの問いが示されている。何を学ぶのか意識できるように、「見方を変えて」や「つなげよう」の問いもあり、多面的・多角的に考えられるよう構成されている点に特徴がある。
	巻頭にオリエンテーションのページがあり、1年間の学習の見通しが持てるよう配慮されている。	付録の「学びの道具箱」では、各自で考えるときに、考えを広げたり、分類・整理したりするための思考ツールが示されている。	二次元コードで、手軽に教材の朗読が聞けるように工夫がなされている。	1年生「自分の地域の宝って」では、みんなで地域の宝を見つけてみる活動を通して、地域の大切さに気づけるように工夫されている。	付録の「教材別テーマ一覧」「この教科書が目指した3年生の姿」により、道徳科と現代的な課題や各教科等とのかわりをとらえられるよう配慮されている。	「熟語の構成」の構成法の型の名称が他社と異なるので、配慮がほしい。(1年p.236-237)	
O 日本文芸出版	35時間分の教材が用意されており、学校の年間行事や生徒の発達の段階を踏まえて、教材・コラムがバランスよく配列されている。	「よりよい社会を考える」「いじめと向き合う」がユニット化されている。また、2つのユニットは、年間を通して複数の教材から多面的・多角的に考えられるよう構成されている。	実在の人物を扱った教材が設けられ、「あすへのメッセージ」として、中身に贈る書下ろしのメッセージがあり、考えを深められるよう配慮されている。	6つの教材に付随している「学びを深めよう」には、問題解決的な学習や体験的な学習など学習の流れが示されており、見通しをもって学習できるよう配慮されている。	巻末には「内容項目別教材一覧」が示されており、教材や他教科等との関連やいじめなどの「テーマ」との関連が図られるよう配慮されている。	全学年いじめユニットが2～3回で構成されており、いじめについて多角的・多面的に学習ができるように工夫されている。	各教材末の「考えてみよう」には、ねらいに迫る問いが示されており、さらに「自分に+1」の問いを用いて、自分事として考えることができる。また、別冊「道徳ノート」は教科書に対応しており、発問や自分の考え、振り返りを記述する欄があり、指導者の授業展開によって柔軟に活用できる点に特徴がある。
	巻頭の「道徳科での学びを始めよう！」では、道徳科を学ぶ意義や学習内容、学び方が掲載され、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。	「学びを深めるヒント」では、付箋を使ったり、イラストを比較したりすることで、対話的・協働的な学びができるよう配慮されている。	島根県出身の井手上漢さんを題材にした「カラフルな世界で」を取り上げ、個性を尊重することの大切さについて考えられるよう工夫されている。(3年p.93)	石見銀山(1年)、鳥取砂丘(2年)、水木しげ地域に関わるものが取り扱われており、地域に根付いた学習ができるように工夫されている。(各学年巻末付録)	コラム「視野を広げて」や情報モラルに関わる教材では、生徒の実生活や発達段階に応じて内容を変更でき、学びが広がるよう配慮されている。	デジタルコンテンツとしてデジタルワークシートや心情メーターが入っており、視覚的に生徒の気持ちや表現できるように工夫されている	

選 定 に 必 要 な 資 料

(種目名：道徳)

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1)内容、程度、分量等	(2)題材の選択や構成等	(3)興味・関心への配慮等	(4)教科の特性、県の実態や課題への適合等	(5)各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6)その他(特筆すべき事項)	
p G a k k e n	35時間分の教材が用意されている。教材に応じて「クローズアップ」を配置し、教材の関連情報が掲載され、広く学ぶことができるよう配慮されている。	各教材で主題名を示さないようにすることで、生徒自身が自ら課題を見つけ考えられるよう配慮されている。	すべての教材の下に「キーフレーズ」を入れ、授業の導入時に生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。	「クローズアップ」で、生徒が視野を広げられるようなコラムを入れる配慮がされている。	教材の発展的な内容や他教科との関連を図った内容、関連書籍が「クローズアップ」の特設ページで紹介されている。	支え合いや互いを認め合う教材が多く、学習を通して自己理解のみならず他者理解を深めているように工夫されている。	各教科の「考えよう」では、ねらいに迫る問いが2つ用意されている。また、「深めよう」では、教材をもとに考えを深め、広げることができる。また、学期ごとの学びを振り返る「学びの記録」や1年間を振り返り次年度に生かす「未来への扉」を記入することで、自己の変容を生徒自身が確かめることができる特徴がある。
	巻頭の「道徳科で学ぶことと考えること」では、考えを広げたり深めたりするための方法や学習の流れが示されており、多様な方法で学びを深められるよう配慮されている。	著名な人物のライフスタイルを取り上げ、「デジタルとの付き合い方」について深く学べるよう配慮されている。	写真やイラストを効果的に用いて、興味をもって授業に取り組めるように配慮されている。	大田市三瓶町での出来事を取り上げた教材「金色の稲穂」が設けられている。県内の題材を取り上げることで、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。(1年p.90-93)	「色とりどりに輝く」の2年生のユニットでは、LGBTQについての教材を用いて多様性について考えを深めることができるように工夫されている。	新型コロナウイルスを取り入れた教材があり、教材を身近なものとして学習ができるように工夫されている。	
T あ か つ き 教 育 図 書	学校の教育活動や年中行事との関連を考慮して、35時間分の教材が用意されている。また、ユニットを組み、重点項目について生徒の考えが深まるよう配慮されている。	現代的課題をテーマとし、「『いじめ』を考える」など、連続する複数の教材をユニット化し、テーマについて様々な視点から考えを深められるよう構成されている。	「ふるさとに学びを広げよう」では、石見銀山遺跡とその文化的景観が紹介され、地域への興味・関心が高まるよう配慮されている。	現代の社会で話題になっているものを教材として取り上げ、自分のこととして考えられるように配慮されている。	「Thinking」が各学年で6～7つ用意され、教材で学習したことを深めたり、広げたりするとともに、実生活につなげることができるよう配慮されている。	すべての教材の巻末に「自分との対話」を設け、教材での学びを踏まえて自分を問い直すことができるよう工夫されている。	冒頭部分には内容項目の視点のみを示し、主体的に考えを深めることができる。また、巻末の「学習の記録」のページを活用して、各学期の1年間の学びを振り返り生徒自身が学びの変容をとらえられる特徴がある。
	最初の教材に「道徳はじまりの時間」が設けられ、道徳科での1年間の学びの指針が発達の段階に応じて示されている。	3つの「MY pLUS」が設定されており、役割演技や話し合い活動を通してより深く考えることができるよう配慮されている。	現在活躍する人物を扱った教材や漫画で読み解く教材があり、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。	各地域のことを取り上げた教材が多く取り入れられ、自分の地域と重ねて考えられるように工夫がされている。	巻末の「内容一覧」では各教材と他教科等との関連が図れるよう配慮されている。	各教材では、文章を中心として構成されており、落ち着いて文章を読むことができるように配慮されている。	
U 日 本 教 科 書	ガイダンスと34時間分の教材が学習指導要領の内容項目別に配置されており、各学校の年間計画に応じて教材の順番を組み立てられるよう配慮されている。	主題を章の扉のみに示し、生徒が先入観を持たずに学習に取り組むことができるよう配慮されている。	様々なジャンルの人物を取り上げ、エピソードや体験から考えをふかめたいけるよう配慮されている。	様々な立場から「いじめ」について考えを深められるように、教材の配置など配慮されている。	キャリア教育の視点から、生き方について考える教材が多数掲載されている。	哲学者の格言から、「自由」「幸福」「愛」について考えを深め、議論する教材が配置されている。(1年p.36-40/2年p.34-38/3年p.44-48)	ウェルビーイングカードを用いて、考えを整理したり、対話的な学びにつなげることができる。また、内容項目ごとに教材を配列し、各学校の年間計画に応じて教材の順番を組み立てられるように構成されているという特徴がある。
	ガイダンスページでは、全学年の振り返りや学習の進め方が示してあり、見通しをもって学習できるよう配慮されている。	巻末に「ウェルビーイングカード」をつけ、生徒自身が大切にしたい価値を意識したり、生徒同士で議論しやすいように配慮されている。	3年生の表紙絵で多様性を表し、道徳で学ぶことへの興味・関心を持たせる工夫がされている。	森英恵(1年)、分け火(1年)、茶道(3年)など島根県に関わりのあるテーマがあり、生徒も教材が身近な存在として学習ができるように工夫されている。(1年p.112-115/3年p.58-60)	教材の順番を組み立てることができるので、他教科との連携が可能となり、教科横断的な学習が可能になる。そのため学習をより深めていくことができるように配慮がなされている。	写真や挿絵を少なくし、生徒が個々に考えを広げたりまとめたりできるように配慮がされている。	